

# 幼見之教育



第一號 一月 第一卷

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

# 改訂 增補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓叁拾錢 送料 金 八 錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要から到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

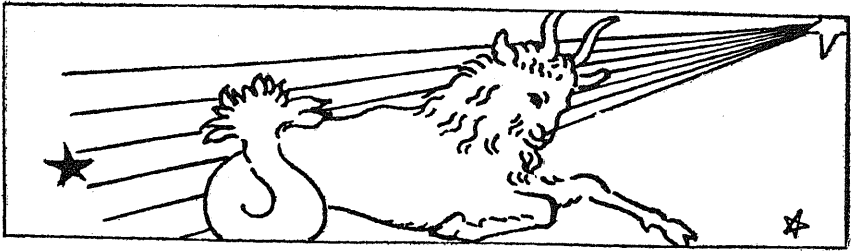
幼稚園唱歌選集 第二輯

B 列四號二八頁

定價 金壹圓  
送料 金八錢

幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金叁拾五錢 送料金一錢  
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料 共



第 三 十 四 卷 幼 兒 教 育 の 第 一 號

目 次

卷 頭	倉橋惣三(一)
幼稚園と國防	下村壽一(二)
大東亞共榮圈と幼児教育	森田孝(三)
二月の保育	
生活訓練	倉橋惣三(二)
自由遊戯	上遠文子(三)
遊 戯	古澤靜子(四)
觀 察	清水光子(六)
談 話	安村ふさ(八)
手 技	及川ふみ(九)
誘導保育	菊池ふじの(二〇)
「おもちゃ屋」の記録より	山川幸枝(二三)
保育の實際	
この子達をよい子に	清水光子(二九)
友達から嫌はれる子	安村ふさ(三〇)
幼児製作の双六ミカレンダー	附屬幼稚園(三三)
誌上 講習 兒童心理學(第十講)	牛島義友(三七)
幼児の母	(四一)

我が子、國の子—幼稚園から—時局を幼児にどう教へませう(倉橋惣三)—  
 文部省推薦圖書—躰け方の試み

# 生徒募集

一、募集人員 一百名

一、出願期限 三月末日迄

無試験檢定ノ特典アリ

規則書入用ノ方ハ四錢切手封入申込マレタシ

東京市杉並區高圓寺三ノ二九八

聖心學園内(電話中野二四八四)

省線高圓寺驛 青バス 市電高圓寺三丁目下車

東京保姆專修學校

# 保 育 奉 公

## 大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

幼稚園

うちつれて園生にあそぶうなの子は學ぶをなしにもの學ぶらむ

明治天皇の御製に此の御題を謹誦し得ることは、われら幼稚園を御奉公の職域としたすものにきり、如何に有り難いことであらう。明治三十九年の御製を承はるだけで、さういふ御折りの御詠かは存じよらぬが、貴き御感興を、幼稚園に遊ぶ幼児らの上に垂れさせられての御詞藻こそ、まことに忝ない極みである。

しかも亦、たゞ幼稚園のありさまを敍し給へるばかりでなく、此の教育の本質の中心を、畏くもまさしく教へさせ給ふてゐるのである。學ぶをなしにもの學ぶらむ。幼稚園を、たゞ戯れ遊ぶところのみ見て、もの學びしてゐることを悟らぬものもまだ多い。もの學ぶは教育されてゐることである。その教育が教育を受けてゐることも知らず受けられてゐることいふことを知らぬものに至つては更に多い。御製は、この幼稚園の要諦第一義を、はつきり捉へさせられ、はつきり示させ給ふてあるのである。いつの世か、幼稚園の教育を歌ふてこれに過ぐるものがあらうか。

徒に空しく遊ばせてはならぬ。しつかり教育しなければならぬ。しかも、教育してゐるのであるが、教育されてゐることいふことを幼児に意識させてはならぬ。被教育意識をもたせることなしの教育。かういふことした言葉を、われらの保育學では常に申すのであるが、御製は、そこを何んごすらくごよみ出でさせられてゐることである。理によらぬ幼稚園の性根のすなほさが、そのすなほさのまゝに、われらに感ぜしめられてゐる。學ぶをなしに學ぶ幼児である。教ふるをなしに教へ得るわれらでなくてはならぬとも、美しきまごころの中に、すらくご教へさせ給ふてあるのである。

# 幼稚園と國防

會長 下村 壽 一

周知の通り、改正國民學校施行規則に於ては、國民科理數科體鍊科等に於て、國防教育を重視すべき趣旨を示してゐる。このことは、新制國民學校以前からも決して閑却されてゐたのではないけれども、實は甚漠然たる嫌があつたのを、皇國使命の重大性愈々加はり、世界の大大勢益々複雑化するに伴ひ、我國教育の一重點とすべきことが確認され、國民學校令施行規則中に判然と明記されることになつたのである。國防重視は獨り國民學校のみではなく、今後改正さるべき中等教育師範教育は固より、大學専門學校に至るまで、教育のあらゆる分野を一貫して實現さるべきである。かゝる次第であるから、幼稚園の保育に於ても、この國家の要望に副ふやうに、十分の用意を以てこの問題を取扱ふことが必要である。勿論、幼兒に國防の意義を理解させたり、國防に關する常識を與へたりすることは、困難でもあり不可能でもあらうけれども、一面現代の國防は國民總力の結集に待つのであつて、幼兒の力も雖も決して度外視さるべきでなく、他面あらゆる教育の根柢を培ふ幼稚園は、幼稚園相應の研究工夫をせねばならず又その餘地は十二分に存することゝ考へる。私は唯兵隊ゴッコや軍艦遊のこゝ丈けを申述べてゐるのではない。皇紀二千六百三年の新春に當り、眞劍にこの重要な問題を提起して諸師の御留意を請ふものである。

# 大東亞共榮圈と幼兒教育

文部省總務局涉外課

森

田

孝

一 支那事變が起つてから、興亞教育と云ふ言葉が流行し、大東亞戰爭が初まつてから特に興亞教師論が喧しくなつてゐる。私共素人はこんな言葉を聞くに、何か特別の學說が思想が據頭して來て、今後は難しい研究をし、從來は全く異つた教育方法を探らねば其の趣旨に添ふことが出来ないのではないかと心配する。事實私はその爲めに、論者の説を相當漁つてみたし、又二年程前から偶々國際的な文化事業に携る機會を得て、色々の事例を見聞し、經驗する間に、此の問題に關し反省し考究する義務を課された。そこで今日迄に得た私の結論を最初に説明せうと思ふ。

興亞教育は一面に於て從來の教育と全く異つたものであると共に、他面に於て全く同一のものである。全く異なるのは方法の問題に於てあり、全く同じなのは理念の問題に於てである。云ふ迄も無く、我が國教育の大眼目は終始一貫教育に關する御勅語に御示しになつてゐる。「之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラ」ないのである。大東亞建設と云ふ我が國開關以來未曾有の飛躍的展開期に於ても尙ほ「子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所」を仰せられてゐる如く、斯の道は飽く迄我々日本人の則るべき皇國の道である。従つて、此の教育の根本方針に於て五十年前も今日も何等變る所が無いと言つてよいと思ふ。併し、此の御勅語の御趣旨を達成する上に於て、果して從來爲して來たやうな態度なり方法なりでよいであらうか云ふ問題が、今や提起せられたのである。そしてそれは如何なる形に於ても教育者三名の付く人は誰でも、今日ハッキリ解決し、その解決點に立脚して教育に邁進せねばならぬ義務を持つてゐる。これから述べる所に依つて明かな如く、此の責任は兵士の一人一人が戰場に於て擔つてゐるのと同じ程度に皇國の運命が課せられてゐる重大なものである。大東亞建設の大業は、教育者が此の責任をどの程度に果すかに依つて其の成否を左右されることを云つても過言ではない。

二 幼童教育に携つてゐる人々は特によく氣が付く事と思ふが、子供の性格は殊に其の家庭や周圍の社會の風潮に依つて決定せられてゐる。而も此の子供の時の性格が生涯を形造くるのである。最近迄或る高等農林の校長をしてゐられた知人が嘗つて女子教育の重要性を説いて、人間の性格は二歳迄に決定される云はれた。胎教の重要性は今でも信じられてゐる。此等の點から考へて、我々の祖先が三千年の間次ぎ次ぎに受けて來た母や家庭や村や、そして又大きくは國の風格の影響は實に圖り知れないものがある。我々の祖先が三千年の間皇室を中心一家の如く睦み合ひ、一致團結して天業の恢弘を翼賛し奉つて、彌榮えに榮えて來た事實は、今や我々日本民族の血や肉に獨得の性格を造り上げて來た。

其の第一は、皇室を離れ即ち日本云ふ國を離れて生きてゆけない性格である。我々の生活は、國家生活から切りはなして考へ得られない。之は内地だけで生活してゐる場合には餘り氣がつかぬかも知れないが、他民族殊に滿人、漢人の生活を見比べてみるに一番ハッキリ解る。一二の例を拾つてみるに、(一)、我々のうちのどれだけが我々を管轄してゐる警察の署長の名前なり經歷なり人物なりを知つてゐるであらうか。而も尙我々は警察の御達しだと言へば無條件に之に従ひ、之に協力する。之は決して其の警察署長の人物をよく知つて、其の人物に對する信頼を尊敬から生れ出た服従でも協力でも無い。我々が警察的な達しなり取締りなりに服従し協力するのは、之を發した署長の人物を信頼する云ふよりも、彼が國家から警察署長に任命せられた云ふ事實、換言すれば彼の肩書なり資格なりが物を言つてゐるのである。もつと突き詰めて言ふならば、我々日本人は日本の國を絶對的に信頼し、之に自分等の生活の一切を歸一せしめ、全面的に之に依存してゐるから、其の國家が此の人物は適任なりとして任命した人ならば、その事實だけで之に全幅的な信頼を置き、尊敬を拂ふのである。然るに支那滿洲には古來官匪云ふ言葉が有つて、官吏も匪賊の一種に數へられてゐる。支那人滿洲人にまつて、官吏は畏怖の種でこそあれ、信頼や尊敬の的では絶對に有り得ない。彼等が眞に信頼し尊敬する官吏ありますれば、それは其の人が官吏なるが故で無く、其の人の人物そのものが眞に信頼を受け、尊敬を受けるに値ひするからである。従つて、一度び信頼し尊敬したら、其の人が官職に就いてゐるやうな野に下つて無位無官の一社會人にならうと、飽く迄其の人を信頼し尊敬してついで來るのが支那人滿洲人の性格である。之は日本人が三千年の日本歴史に依つて、今日の如く皇室を離れ、國家を離れて考へ得られないやうな民族性を具有するに到つたと同じく、彼等の五千年の歴史が今日の滿人漢人の性格を形造つて來たのである。滿人漢人は日本人と正反對に、五千年の間國家の恩惠は少しも受け



ず、寧ろ興亡常無き政情に苦しめられ、萬里長城の築造に依つても明かな如く、異民族に對する恐怖に悩まされ通してあつた。従つて、滿人漢人が其の生命を保持し、其の子孫の繁榮を期待する唯一の方法は、自分の實力に頼り、又自分が眞に信頼し、尊敬し得る人物を見出して之に依存し、ついて行く外無かつた譯である。故に彼等にまつては肩書や資格は何等信頼の第一義的根據ならぬ。彼等にまつて物を言ふのは事實であり、實力だけである。(2)、此の事は教育者に就ても全く同様で、私も二年半程或る縣で教育行政の衝に當り、三回程師範學校の卒業生を送り出したが、彼等は師範を出て縣から「○○縣訓導ヲ命ズ」云ふ辭令を貰つて、夫々地方の國民學校に赴任して行けば、兒童は勿論父兄から先生として絶對的な信頼と尊敬を受ける。其の人物に於て、實力に於て、十年二十年の經驗や研究を重ねた先輩訓導に及ばざる所が必ず有るであらうが、兒童や父兄の信頼と尊敬は彼此變る所が無い。之れ全く彼等が訓導として、學校の先生として國家から公認せられてゐる事實に基くからである。滿人漢人にまつて眞に師として敬ふに足るや否やは、此の肩書に第一義的根據があるのでは無く、其の經驗や研究の結果、即ち其の人物の如何に第一義的なものを置いてゐるのである。(3)、北支で二年程支那人に對する文化行政に携つてゐた人が、最近歸朝して筆者に物語つた述懐の中にこんな事が有つた。さうも支那人の陳情を聞いてゐるに我々日本人の持つてゐる論理と全く違ふやうだ。我々から考へるに、彼等の前提と結論との間に全然脈絡が無いのみならず、其の前提の間にも一貫性が無い。而も彼等にまつてそれが眞實であり、又事實に於て其の前提とせられてゐる状態から其の結論とせられてゐる状態が出現するのである。換言すれば日本人同志の間で通用する論理は支那人滿洲人の間には通用しない。併し、彼等の持つてゐる理窟は、彼等の生活に具體的には妥當してゐるのである。

以上の實例から考へ得ることは、我々日本人が、日本人同志の間で通用してゐる話や理窟を他の民族の間に持つて行つても有りの儘には通用しない事である。さこへ行つても通用するものは、我々の生活に於て具現されてゐる事實だけである。如何なる懸河の辯も巧妙な口説も他民族にまつては何等の價値の無いものである。その民族にも正しく受けとられるのは、我々の生活力、實踐力だけである。

三 我々日本人が大東亞共榮圏の指導者にならねばならぬことは自明の理であり、周知の事であると思ふ。併し、さうして我々は指導者として大東亞諸民族から信頼と尊敬を受けるか。八紘爲宇の大理想之に勿論非の打ちどころは無い。

併し、我々が如何に此の理想の高邁なることや有難いことを大東亞共榮圈内の人々に申し聞かせた所で、彼等は決して喜んでついて來ない。従つて、我々は如何に雄辯な或ひは巧妙な口説の徒を育成しても、日本を中心として大東亞建設云ふ大業完遂に役立ち得ないのである。況んや、小理窟を竝べたり、小事に拘泥したり、肩書や資格だけを振り翳して無理押しに押してゆかうとするやうな人物の育成に於ておや。要は理窟でない。理論でない。概念でない。生活の事實であり、生活力そのものであり、實踐力の培養以外に、此の雄渾なる天業恢弘を翼賛し奉り得る日本人の育成は無いのである。事實に於て大東亞諸民族が各々其の所を得て、大御稜威の下生々發展の實を擧げてゆく所に、大東亞建設は自ら成るのである。

然らば従來の教育は斯る實踐力の培養に資する所が無かつたか云ふに、決してさうでは無い。只従來の學校教育は餘りに知育に力を入れ過ぎ、又従來の教科過程は餘りに科學的に體系化され過ぎてゐた。従つて、それは必然的に概念的ならざるを得なかつた。勿論それは徐々に生活に即するやうに改善されて來たけれども、國民學校制度が生れる迄は其の根本に於て徹底し得ないものが有つた。故に今や學校教育に於て如何にして實踐力を培養するか、各教科を如何にして兒童の生活化せしめるか云ふ問題が大きく採り上げられて來たのである。従來は兒童生徒が教へられた事を如何にして自分の生活に消化し、如何にして自分の實踐力を培養するのに役立たせるかは、兒童生徒自身の問題として、其の能力に任せられてゐた。之に反し、國民學校の教育に於ては、兒童の生活そのものが先づ採り上げられるのである。例へば、我々の小學校時代の讀本は「ハタ、タコ、コマ」云ふ物の概念から初められてゐた。それが生活に即せしめる意味に於て、次の時代には「サクラサクラサクラサイタ」云ふ「櫻が咲く」云ふ事實から入つて行くやうに改められた。併し、大都會の子供なぎの中には櫻も見た事が無ければ、それが咲く云ふ現象に接した事も無い兒童が有るかも知れない。國民學校時代になるに、それが兒童の話し方から初められることになつてゐる。「話す」ことは二歳にでもなればこの子供の生活にも有ることであり、學齡に達する子供なら啞で無い限り話す生活はある。此の刷新は單に程度を高めただけで無く、其の態度に於て百八十度の轉換をなしたのである。

私は十年前に學校を出た者であるが、つい最近迄左の歌の意味がほんたうに解らなかつた。否、學校で教へられた時以來解つたつもりであるが、事實はほんたうに解つてゐなかつた事が最近わかつたのである。

み民我生けるしるしあり天地の

榮える時にあへらく思へば

彌榮えに榮えまつる御代を思ふに、大御寶として生を享けた喜びに有難さを泌々感ずるに云つたやうな意味だは解釋してゐたし、又人にもその意味で度々此の歌を引用して話をしてゐた。然るに、先年紀元二千六百年の佳節に當り、御召しに預つて、宮城前で奉祝の賀宴に參列するの榮に浴した。懼れ多い事であるが、其の節、天皇皇后兩陛下におかせられては、正面の御殿に出御遊ばされ、御机の上の御箸を御探りになりつゝ、御和やかな御容子で御話し合ひをなされつゝある。其の御前で我々民草一同が折詰を開き箸を採つて、聖壽の彌榮を壽ぐことが出来た時、其の時こそ、本當に嬉しさに涙が出て仕方が無かつた。私ばかりでは無い。周圍の誰彼も感極つてゐるやうであつた。私はその時思はず知らず前記の歌を口吟ひてゐたのである。それ迄の私は矢張り概念的であつた。頭だけで解つてゐたので、具體的、生活的で無かつた。もう一つ例を上げやう。私は學校を見せて貰ひに行くに、兒童生徒諸君によく「天業を翼贊し奉る皇民は誰だ」と云ふ質問を出したものである。上手に答へる子供は大抵「日本人です」と云ふ。勿論之で間違ひ無い。併し、兒童生徒をして「天業を翼贊し奉る皇民は日本人だ」と云ふ事を知つてゐる子供にするだけの教育が果して完璧なものであらうか。私はこのやうな返事を聞くにいつも、何故「天業を翼贊し奉るのは僕だ。私だ。」と云ふ返事が出来る迄、もう一步徹底出来ないであらうと思ふのであつた。

四 實踐力培養を主眼とする教育は「教へる」と云ふよりは寧ろ「化する」のである。兒童を單に知的に見ないばかりでなく、知徳體なまゝ分析的に眺め、知育、徳育、體育なまゝ分けて考へるのでは無い。子供の生活そのものを一つのものとして採り上げてやるのである。彼の生活は横には家に村に國に擴がつてゐるし、縦に考へれば遠い祖先から遠い子孫に繼がつてゐるのである。教育者は此のやうに意味の深い、内容の豊かな兒童の生活を汲むでやつて、それがその儘擁ては教育勅語に御示しになつてゐる境地に到達するやうに導いて行つてやるのである。之は單なる技術では出来ない。況んや、空疎な理窟や口頭禪では出来ない事である。教育者自身の修鍊を教育者たるの自覺に基く深い廣い愛の力に依る外ない。殊に幼稚園は教育の段階のうちで最も「化する」度合の強い所である。明治天皇の御製にも

うちつれて園生にあそぶやうなる子は

學ぶをなしにもの學ぶらん

を併せられてゐる。併し、之は幼稚園は學校教育の準備教育でないとか、寧ろ家庭生活の補充的意味をなしてゐるとか云ふ議論を正當化する御言葉であるとは拜誦しないのである。今迄述べて來た所に依つても明かな如く、國民學校は從來の小學校と異り、教へる所であるよりも寧ろ化する所である。兒童の生活を一體として採り上げる云ふ根本的態度に於ては幼稚園と國民學校との間に何等の差異が無い。只指導上に於ける分化の程度が段々高度になるだけであつて、教育の精神は勿論其の態度なり、方法なりに就いても兩者の間に一貫性が無ければならぬと思ふ。準備教育云ふ言葉が知育の面に就いてのみ云ふものならば、それはもう今日に於ては幼稚園のみならず學校教育の如何なる段階に於ても存在しないのである。そして又生活全體に於ける「斯ノ道」の修練云ふ意味に於て考ふれば、如何なる教育の段階も常に次ぎの段階への發展を豫想しないものは無い。此の修練は生涯續くべきものであり、學校時代と然らざる時代との違ひは指導者而も國家から公認された資格を有する指導者が指導するやう定められてゐるいはゞ人生の基礎的修練なるや否やの相違に過ぎない。其の意味では幼稚園と學校とは變る所が無いし、又其の意味では幼稚園は國民學校の準備的役割を果すべき所であり、保姆たる者は國民學校を十分研究し、其の繼りを考へて指導すべきである。併し、如何なる段階の教育でも、眼目は常に教育に關する御勅語に在るべきであるから、此の意味で準備教育で無いと言ふのなら又準備教育はここにも存在しないのである。

更に幼稚園は家庭教育の補充が目的だ云ふ考へは、勿論幼稚園令第一條の條文に基くものであらうと思ふが、問題はこの家庭教育に在るのであつて、之を無條件に認めて、幼稚園で其の補充教育をするのだと考へるならば之又大きな誤りであると思ふ。少く共最近迄の我が國の各家庭に於て、個人主義的な占有觀念が親の心を占め、子供の生活に潛むてゐなかつたに誰が斷言出來やうか、國を離れた家は無く、國家生活と切り離して家の生活も兒童の生活も無い事、既に述べた通りである、子供は子供なりに、大御寶としての正しい生き方に徹せしむるのが幼稚園の目的である。従つて、現行幼稚園令第一條は、右の趣旨に於いて正しい家庭教育が行はれる事を前提として理解されねばならない。教育審議會の答申中にも幼稚園は單に家庭を扶けるのみならず、家庭教育の改善に裨益し、幼児保育の全きを期すべき事が述べられてゐる。是等の點を考へるに、我が國未曾有の飛躍的發展期に際會した今日、大東亞建設の指導者たるべき大國民的性格を具有する日本人を育成する上に於て、幼稚園に於ける保育の占むる重要性は實に測り知れないものがある。

五 然らば、園児指導者たる保姆に求められるものは何か。保姆の努むべき事、在るべき姿如何。此の問題を結論として提起したいと思ふ。

幼稚園令第九條には「保姆ハ幼兒ノ保育ヲ掌ル」云ある。保育云ふ以上特に保健や躰に重點を置いた教育であることは明かである。併し、それは決して子供のお守りや従来よく見掛けた如き特種の宗教々育であつてはならない。保育も亦教育として教育に關する御勸語の御趣旨の徹底に外ならない。従つて又其の方法は之迄縷々説明した如き、時勢の進運に即應した大東亞共榮圏内でも通用する實踐力、生活力の培養に重點が置かれねばならぬ。

併し、保健や躰に重點を置いて、大國民的性格を具有する日本人を造り上げる云ふことは容易のことではない。第一今日の子供は十年前の子供とは全く異つた雰圍氣に育つてゐる。此の急激な時代の伸展を眞に體認出来るのは幼兒が一番である云々へ思ふ。成人は觀念的には或ひは理論的には認識するかも知れないが、執着するものも無く、無條件に時代の空氣を受容せられ、自然に其の中に入つて息吹きの出來るのは子供ばかりであると言つてよい。殊に自由主義時代に教育を受けた者が、此の大東亞建設の大業に全身全靈を投げ出して參じ得るには餘程の修練が必要である。否、數年前に學校を出た者でも、一昨年大東亞戰爭勃發以來の躍進日本の胎内に、シツカリ身を入れ得るには熾烈なる自己鍊成が無ければ不可能であらう。

嘗て滿洲國の留學生の一人が私に苦衷を訴へた事がある。それは日本の學校で色々の場合に書く、例へば試験の答案とか或ひは感想文等から見て、いつも教官に注意を受ける。滿洲國政府からわざわざ親邦日本に派遣せられて來た留學生がいつ迄も日本精神を理解しない、稍々もするご自由主義乃至は共產主義的な思想のひらめきを見せる。そこを注意され、又それ故に成績も良くして呉れない。併し、其の學生は斯う云つて眞情を吐露してゐた。

「私は十年前即ち滿洲國が生れる前に既に人ご爲り、蔣介石、張學良の抗日共產の教育を受けて育つた。私の育つた頃は四圍總べてが其の雰圍氣であつたから、私はそれに何の疑問も持たなかつた。併し、滿洲國が生れ、日本ご精神一體となつて、民族協和、王道樂土の建設が始まつてみるご、我々の育つて來た社會が間違つてゐた事に氣付いた。そこで私は新生滿洲國の建國精神を理解し、其の中堅ごならうご決心し、爾來研究に修養にあらゆる努力を拂つて來た。理窟では十分解り、十二分に納得してゐるが、仔細に自分の生活なり、眞情を見てみるご、矢張りまた成り切つてゐないのです。そ

れが私の論文なり、答案なりに自然に出て来るのです。生れて十五年の間に泌み込むだ性格は、十年掛つても抜け切らないのです。私はそれが自分でも解るだけに人一倍苦しみ惱み、修練に熱情を傾けてゐます。其の點に於て他の何人にも負けないつもりです。私より年上の人々が時局に徹し、滿洲國の理想を體得した如き言動をなすのを見るに感心するばかりだし、又私より若い、殊に十一・二歳以下の子供を見るに生れ乍らにして此の有難い滿洲國の樂土に生を享けた事が羨ましくして仕様が無いのです。云々

保母たる者が、之だけの反省を精進を持つてゐたならば、園児を教育するよりも、園児の生活の中に幾多の反省を精進の機縁を見出すであらう。そこに眞の同心同行の境地が在り、そこから教育者としての大きな愛も情熱も湧いて来るであらう。教育技術などはその先きの先きの問題である。同じ血をわけた同胞であり、陛下の民草であるが、時勢の進運が餘りに急激なため五年前十年前の日本と今日の日本とは大きな隔りがあり、それだけ民族性の陶冶に於て進歩が無ければならない。既に過去に於て教育を終つた者よりは、未だ幼くして何等捉はれるものゝない幼児の方が時代即應性が有る。殊に生じつか教育を受けた者は、過去に於て與へられた既成概念に囚はれて、時勢の流れを自己勝手に認識し、曲つて解釋し勝ちである。此の自分の持つてゐる既成概念から抜け切つて、園児の生活からも、田夫野人の生活からも、尊い教へられるものを見出し得るやうになつた時、始めて自分にも將來に對する洞察力や見識が湧いて来る。そこで始めて教育者として遺憾の無い人物たり得るのである。

さうか教育者としての大きな愛を、右に述べた高い見識を養つて、其の手元に預けられてゐる何十人かの園児が、天子様を知り、皇太子殿下を慕ひ奉るやうに育て、貰ひたい。そしてこの民族をも手を携へて、天子様に御仕へ申し上げ、共々に惠澤に浴せしめやうとする萌が、園児の心の中に少しでも芽生えて來たならば、保母を云ふ比較的小きな職にゐる人でも、立派な軍人に負けない大任を果しつゝある證據である。大東亞建設の大業を立派に翼賛し奉つてゐる證據である。理窟を覺えるのでは無い。園児と共に大きな愛の心を、其の心を持つて生き抜いて行く力を養ふべく反省を精進を研鑽を重ねる事こそ、大東亞建設に參する保母の姿であり、又それが大東亞共榮圈に於ける我が國幼児教育の生命であるを信ずる。

(以上)

# 二月の保育

## 生活訓練

倉橋惣三

二月といへば、年長組の子にとつては、あとも二ヶ月で、國民學校の兒童になる、いはゞ卒業間際といつた譯である。但し、だからといつて何もあはてることがはないが、先生方としては、それが氣にならずにはゐられまい。「そんなお行儀の悪いことで、國民學校にあがれますか。」幼児が理屈屋なら、あがれるもあがれないも、義務教育ですからねと答へそうな言葉が、つい先生方の口から出たりする。それ程、氣になるのであり、それも無理からぬことである。

國民學校の低學年教育の態度は、昔のやうに子どもに高飛び一段を無理強ゐるものではない。新入學兒童としての理解も、寛大も、あしらひもある。子どもは、どこまでも、わざとらしく準備されてゐる必要はないのである。しかし、徐々にせよ、躰は、新しい國民學校の教育方針である。それを受け易く用意せられてゐることは、國民學校の方ではなく、その子のために仕合せなことである。幼稚園は、その點で、國民學校の入學に準備してゐ

るといへる。勿論、國民學校への準備といふことだけが、幼稚園の必要ではなく、もつと廣い意味で、その子の基本教育をしてゐるのであるが、その結果は、國民學校入學の時に先づあらはれるのである。

そこで、今まで續けて來た躰を、こゝでまた強化する必要がある。必要といふよりも、機會であるといつた方がよいかも知れない。幼児も目の前に國民學校入學の楽しみを置いて、子どもなりに緊張してゐる時だからである。

一には、登園時間の正しきである。幼稚園としては、そう厳しくしなくてもふこともあらうが、學校では遅刻は絶対にゆるされない。それをよく躰けて置かなければならない。尤も、朝の遅刻は幼児よりも家庭にある問題で、家庭を躰けるといつた方が適切なのであるが、遅刻の氣まりわるさ、自分としての不愉快さを幼児にまひさせぬようにしたのである。此の趣旨を家庭によく徹底させると共に、遅刻のよくないことを、幼児に感得させる必要がある。兎に角く、遅刻まひは、幼稚園へ上らなければならないことと、幼稚園へ上つた爲に却て、こんな惡癖もつくのであるといふ、妙な論にはなり兼ねない位である。

二は、自分の持ちもの、始末を自分でするである。帽子、辨當、傘、外套といつた類のものを、正しく自分の置き場に置き、きまりよく、整頓し、置き忘れたり、他のものと取り違へたりしない癖である。そんなことは氣をつけさへすれば容易く出来るといふこともあらうが、その、氣をつける躰が大切なのである。持ちも

のに對する投げやり、ぞんざい、そまつ、ふしだら、それはたゞ物を大切に、人手を煩はさぬ爲といつた躰けであるばかりでなく、性格そのもの、陶冶になることである。たとへば、落ちつき、稠密、周到といつた風の性格の養成の基本になる。物を整理し得ることは、心を整理し得ることである。

三には、行動を他と共になし得る躰け。これは、大體幼稚園で毎日してゐることで、大抵の子どもは當然その躰けが出来てゐる筈であるが、どうかすると、その出来ない子がある。行動を共にせぬとふことは、これからはいる學級の集團訓練に甚しく妨害になる。みんなが集る時は、自分も急いで集合する。みんながぎちち、としてゐる時は、自分もぎちちとしてゐる。みんなが行列を作つてゐる時は、自分もその行列の中へはいる。たとへばかうした類である。ところで、斯うした躰けのねらつてゐるところは、さういふ習慣が行動の上で養はれることであるが、もつとこまかにいへば、他と行動を共にすべき時に、それをしないのであることを平氣でなくする躰けである。所謂變人といふ型は、これが平氣なのである。平氣以上、それが快であつたりするのである。そんな變り性にならないやうに心持ちを躰けて置きたい。

四には、先生の言ふことを、よく、正しく聽くことの躰けである。うはのそら、よこむき、いゝかげん、さうした悪習は、幼稚園のものとしても、教育を受取らせ難いことになるのであるが、國民學校に入つては一段と損なことになる、正しく授業を受けるといふことは、國民學校兒童の必須の要件であるが、それは、幼兒からのこの躰けなしには出来ない。そして、この躰けのために

は、一應きちんとした訓練をする必要があらう。自發自由の名を託して、許すべからざることを許すことが幼稚園には往々あるが、さうした氣まぐれでは、學業を受けることは到底出来ない。勉強する習慣といふものがいつも尊重せられるが、先づ大切なのは、よく學ぶ習慣である。

自由遊戯

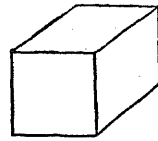
上遠文子

厳しい寒さにも、すっかりなれて、むしろ忍びよる春の感觸を求める此頃であります。

室内遊戯も上手に遊べる様になりました。室の中の何時も變らぬ一定の御道具に子供達は満足出來ず、自然とそれらを用ひて工夫をして遊ぶ様になります。その一つとして、椅子が汽車になります。電車になります、又女の子では澤山ならべて、おマ、ゴトの御部屋にもなるのです。始め、お机やお椅子は用ひない事ときめてなりましたが、子供達の工夫力のすばらしさと、その愉快さうな喜びに負けて、此頃はまあ、と大目にみてなります。その點、箱積木なる一邊三〇糶の立方體の積木、一邊、六〇糶と、三〇糶の長方形のものその他三角、同じ位の板等が有ますと子供達標準の實物大のものをつくる事が出來ますので、とてもよく、椅子等用ひなくてもよろしいでせう。子供達は體と同じ位の大きいものを、えんさくと運び、防空壕だの、戦車だの、汽車だのと製作してゐます。出來上つたものは、自分達が樂に實用的に用



ひる事が出来るので、もう夢中で遊んでゐます。其處には工夫の力をみ、又體力の發揮、練成をみる事が出来ます。いはゆる建設性の保育を多分にしうるゆゑ、何よりの遊びと考へます。年長組



はかうして遊びますが年少組には少し危げなので、これは先生が指導して遊んでみます。先づ(一)、箱積木で鐵橋をつくりその上を汽車になつて渡る。(二)、箱飛びをする。積木を倒さぬ様に飛び越すのであります。(三)、長方形の積木を立て、平均臺のかはりにして渡る。等々これらは、ほんの一、二の例ですが工夫して種々面白く遊べると思ひます。個人／＼やつてもよく、その人の體力の發達程度をよく知る事も出来ますし、團體的競走遊戲にしてもよいと思ひます。

**かごまり入** 紅白の毬を網又は籠に入れる遊びです。その網なり籠の高さは子供の背丈の二倍位凡そ床より二米のものがよろしいでせう。

その道具のない時はその長さの竹の棒に、有合せの籠(果物の籠でも何でもよろしい。口の所をピンと張れば布でよろしい)をとりつけたのでよろしいのです。する時は先生がその棒を持つてゐれば別にとりそろへる必要なく有合せでちよつと遊ぶ事が出来ます。澤山毬を入れた方が勝になります。入れた数は皆で聲をそろへて數へませう。

毬を入れる時、要領のわるい子供は、その體の構へも悪く、自

然と投力も鈍くなりますのでそのまゝにしておかず、先生は、その方法を手を取つて教へませう。

これと似た遊びで、何か目標にぶつける事もやつてみませう。年長組には狭面積のもの、高い所に、一つの小さいものを置き、それにあてる。年少組では、面積の廣いもの、積木とか箱の様なもの。あたつた時に、其處に何か變化をつけておくと一入興味をおこすこととせう。

**かさなり鬼** 二重圓を作ります。鬼の人は外、にをり、つかまへ始めましたら、鬼でない人は何處でも、二人重なるわけです。ですから立ちふさがります。その時、一時三人重なるわけです。ですからその一番後の人は大急ぎで逃げねばなりません。さうして前へ前へと入つてゆきますから後の人はよく氣をつけてゐないと鬼につかまへられてしまひます。途中つかまへられたら、反對に追ひかけて行くのです。大人でも面白い遊びです。やつてみませう。

**なわとび競走** なわとびもやつと上手に飛べる様になりましたから、競走してみませう。距離を走る競走と、耐久の競走とあります。年少組では無理ですが、年長組ではよく出来るでせう。又これをリズムにあわせて飛ぶのも愉快なものです。始め出来なかつた人も、綱を與へると一生懸命して自然ととべる様になるものです。

**うしろむき鬼** 鬼を一人きめます。鬼は皆に背中をむけて立つてゐます。少し離れた所に出發點をおき、鬼が後をむいてゐる間、鬼にみつからぬ様に早く鬼の所にゆくのが勝です。しかし鬼は、時をみはからつて屢々後を振返つて歩いてゐる人をみつつけるの

です。みつげられた人は又元の出發點にもどります。五回出發點にもどつた人は今度は鬼になります。鬼の側までこられた人は鬼の背中をぼんとたゞいてしらせませす。と鬼はもう一度鬼にならねばなりません。お廊下等で遊ぶ、靜かなよい遊びの一つであります。

おとぎばなし遊び 桃太郎、金太郎、花咲爺、猿蟹合戦、浦島太郎、こぶとり爺さん等々、お話を子供の演出で劇をして遊ぶのです。臺詞等は子供達に考へさせてみませう。指導を考へなくとも、自分達ではよくかういふ遊びをしてゐるものです。手技の時に、かんむり等を作つてみると一人で子供の口から臺詞が飛出し、動作がついて來るのです。種々道具も作り、出來たら、そこで先生がその子供達の臺詞を生かして、追加へをし、音楽、お歌を入れると、すばらしいものが出來上ります。皆さんをおよびして、小さい劇の會が開かれるでせう。やはりこれは年長組の遊びでないと年少組にはむづかしいと思ひます。

遊 戲

古 澤 静 子

遊戲の指導にあたつては、大體唱歌をうたつた後に、動作をさせるものでありますから、はじめの唱ひ方が正しく指導されておなければいけないと思ひます。

歌詞の意味を理解し、歌詞のもつ情景、趣きを想起させ得る様にと取扱ふことも、勿論であります。そのみでなく、私共自身、曲を解剖し、どんなリズムが、どんな主題のもとに、どんな形成

で變化發展してゐるかをよく眺め、理解したいと思ひます。そして指導の際にその曲の正しいきざみを會得させる事に依つて、動作への關聯が比較的容易に又合理化され、活々とした歌聲や動作が生れてくるものでありませう。

マママキ 繪本唱歌冬の巻所載  
隊形。二人向き合ふ。

一 節

「鬼は外」二人向き合つて一生は鬼を外へ追ひ出す様に、掌を外側にむけ臂を屈伸しながら、二生を追つて三步前進する。二生は拍手をしながら一生に追はれて三步後退する。

「福は内」今と反對に二生が鬼を追ひ出す様に掌を外側にむけ、兩臂を屈伸しつゝ、一生を追つて三步前進し、一生は反對に拍手をしながら追はれて後退する。

「パラッくくく」豆の音 各自左手を内側にまく様に曲げて豆の入物にし、右手でその豆を撒きながら（一呼間に一回づつ）自分の廻りを右に一まわりする。右手はよく伸ばして、遠くの方へパツパツと撒く。

「鬼はこつそり逃げてゆく」 「鬼はこつそり」で向き合つたまま、人指ゆびを出して、左手右手と順々に頭につけて鬼の角を出し、「逃げてゆく」の時に角を出したまゝ、駈足で二人の位置を交換する。おくれなれない様に、すみやかに行ふ。

二 節

「鬼は外福は内」 「パラッくくく」豆の音」まで一節と同じ。

「早くおは入り福の神」「早くおは入り」で、床上にある袋を肩負ひ上げる様に、二呼間で左足と兩手を前に出し、次の二呼間に兩手をあげて肩に擔ふ動作をする。「福の神」は袋を擔いだ姿勢で一節と同様、二人の位置を交換する。

だるまさん 繪本唱歌冬の卷所載

隊形。腕を組んで二人向き合ふ。

「だるまさんはえらい」二人向き合ひ、各自左足、右足と股を高くあげて強く踏みつける。

「轉んでも起きる」歩いて二人の位置を交換する。「る」の時に位置を交換した二人が、きちんと向き合つてゐること。

「轉んでも轉んでも又起きる」向き合つたまゝ、二呼間で一生は兩膝を屈膝して低くなり、二生が立ち、次に一生が立ち上つて二生が低くなる。これを交互に二回行ふ。

「轉んでもく」又一生と二生は歩いて位置を交換する。

「だるまさんはえらい」はじめの様に左足右足と股を高くあげて強く踏みつける。

これは二拍子で  $\dot{p} \dot{p} \dot{p} \dot{p}$  及  $\dot{p} \dot{p} \dot{p} \dot{p} \dot{p} \dot{p}$  のリズムから成

つて居り、動作を分解すると、

一、二小節 二呼間に一つの動作。

三、四小節 二呼間に二つの動作。

五、六、七、八小節 二呼間に一つの動作。

九、十小節 二呼間に二つの動作。

十一、十二小節 二呼間に一つの動作といふことになる。

兄弟雀 日本幼稚園協會發行 唱歌選集所載

隊形。三人一組になり、縦に並んで兩手を横に擧げ羽を擴げる。「前奏」羽を擴げたまゝ、上下に軽く振りながら三羽揃つて歩

。「小枝に小枝に」先頭の雀は手を腰にとり、後の二羽の雀は、前の雀の肩に手をかける。そして一呼間に一歩づつ、前方に歩き、三歩目に立ちどまつて、傾上の小枝を見上げる。この動作を二回行ふ。立ちどまる時は、その時間に正しく止る事が出来る様注意しなければいけない。

「兄弟雀が三羽」二呼間に一歩づつ、前進しながら、一歩毎に先頭の兄さん雀は後を振り返り、後の二羽の雀は前を向いて兄さん雀を見る。

「兄さん雀はお米好き」先頭の兄さん雀は羽（兩手を横に伸ばして擧げる）を擴げて、好きな方向へスキップでとんで行つてしやがむ。その間、あとの二羽の雀はその場にしやがみ拍手をしてゐる。兄さん雀はよく氣をつけて、後の雀にすぐ見つかる場所を選んで飛ぶ。

「中の雀は木の實好き」二番目の雀が立つて、兄さん雀の後へ羽を擴げてスキップでゆく。三番目の雀はまだそのまゝ、拍手をする。

「おさんぼ雀は蟲が好き」三番目の雀が立つて兄さん雀の後へ羽を擴げてスキップで飛んでゆく、その間、先に行つた雀たちは、しやがんで拍手をして待つてゐる。

「だまつて三羽が並んだ」二呼間に一羽づつ、順々に羽を擴げて立ち上り、四呼間目の「だ」の時に三羽一緒に右足を後にひくと同

時に両手を後に伸ばす。一緒に立ち上らないで、順序よく一羽つづ立つことに注意する。

「間奏(後奏)」 羽を振つて歩きながら、一番後の雀が先頭にたつて位置を交換し、大體三回繰返し行ふ。

### 飛行機

隊形。一列圓形になる。

「前奏」 そのまゝ聞く。

### 一節

「ブン〜〜〜〜ブン〜〜〜」 右を向き、飛行機のプロペラの様に、両手を交互にくるくる廻しながら、圓周上を右へ跼足で進む。

「飛行機とぶよ」 両手を今と反対にくる〜〜廻しながら、元の位置まで跼足で後退する。

「キラ〜〜〜〜翼が光る」 両手を真ぐ横に伸ばして翼を擴げ、始めの四呼間各自の廻りを右に一廻りし、次の四呼間反対に廻る。

「萬々歳」 二呼間に左足、右足と足踏みをすると共に、二拍手し、最後に両手を高く舉げて胸を張り萬々歳をする。

### 二節

「ブン〜〜〜〜ブン〜〜〜」 飛行機早い」 一節の飛行機とぶよ、までと同じ動作。

「あの村あの町見る間に越えて」 始めの四呼間跼足で圓心に進みながら、両手を肩の位置より下におろし、再びなめらかに、そりかへる様にならあげる。次の四呼間、後退しながら上にあげた

両手を前から下に下におろし、横に擴げる。

「雲の中」 一節と同じく、二拍手足踏みをした後、両手を高く舉げて萬々歳をする。

これは二拍子で  $\text{p p p p} | \text{p p p p} |$  のリズムのみから成つてゐる曲でありますから、このリズムに合はせて  $\text{♪}$  を一歩とする正確な跼足をしながら、両手の動作に注意したい。

## 観 察

### 清水光子

節分 節分といへばすぐ豆撒きと、たゞそれだけの行事にならない様にこの日の意味をお話としてまづきかせ度いものである。曆の上ではこの日の次からは春といふことであつてもまだ中々にさむさは緩やかにならない、けれどもうそこに來てゐる春である。どうやら空も春めいて來て日向が驚く程暖かくなる。かげぼうしをみつめてしばらくして青い空をみて影の通りに白い像が空にうつろのなみたりするのもこの頃であらう。垣根の根もとに思ひがけなく青い草をみつけるのもこの頃であらう。そんな時はまだ芽のかたい落葉樹のそばへ行つて芽の様子をみ乍らこの中には葉になつたり花になつたりする小さいものがあること大事にするやうにしやうなどゝ話し合ふやうにしたい。そして時々みめてはその芽の段々に大きくなるのを注意してゐるやうにする。

お豆を撒くのは大切な食料品をむだにするやうでどうであらうか。行事として楽しませ度い爲になら粘土か何かで代用しても充

分であらう。紙のお三寶を紙の袴をつけた幼児がもつて粘土のまめを元氣よくぶつけたならどんな鬼も悪も退散するだらう。

數について 節分の時豆を年の數だけ食べるといふ習慣がある。五つか六つか七つか、自分の年の數(或數だけのお豆(もの)を數へわけることをこんな機會からしてみるのもよい事だと思ふ。もつとも前から何かを數へるといふことは保育のあらゆる方面で行はれてゐるではあるけれど、數として抽き出してしてみることもあつていゝであらう。しかし言ふまでもなく遊びとして、具體數を扱ふのである。これも今更言ふまでもないがたゞ順序數だけを百まで唱へてそれで數觀念の養成だといふやうなことのないやうに。具體的なものを數へることが第一である。であるから五つ迄位の數を具體的に縦横に消化したならこの年齢の子どもとして全く充分ではないかと思はれる。一例を挙げるとお豆を五ついたゞきました、三つ食べました、あといくつあるでせうね、數へてみませう。或は四つのお豆を小さい弟と半分づゝしたらいくつでせう。とかいふ程度に物と數を一しよにして、強ひて抽象數にしないでよいであらう。五つの中からいくつが引いたら三つになつた、いくつ引いたかといふ程度の抽象化ならばよいであらうけれど。又實物を數へる時に段々に物による唱へ方も指導する様にし度い。鉛筆なら一本二本、本なら一冊二冊といふ様に、とにかく數を數として教へるといふ様でなく、遊びの中に數へ、數に關する興味を養ふやうにしたい。

勳章 紀元節のお話に關聯して金鵄勳章のお話が出る。又兵隊ごつこの勳章をこしらへたりする時勳章の繪や寫眞をみて作るこ

とにする。そして畏くも陛下がお國の爲にでがらのあつた者に下し給ふものであることを話すことは勿論である。いつだつたか電車に乗つてゐたら若い傷痍軍人章をつけた人が乗つて來られたので急いで席を立つたところが女學生が知らずにこしかけてしまつた。その方はだまつてゐられたが私は無言でその方の記章を指しただけれど女學生は解せないやうな顔付をしてゐたがその方が「いやよろしいのです」と仰言つたのでしぶ／＼立上つた。私は何も言へないでたゞなまげなく赤面した。幼児であつてもそんなことのないやうにしたいとつく／＼思つたことであつた。

貝 お雛様にははまぐりやさゞえをよくお供へする。又この頃から大潮が近くて貝類が獲れる。そんなことから貝がらをみる機會がつくられる。はまぐり、あさり、しじみなどごく普通のもの貝がらで遊ぶ。數へてじやけん取りをしたり、かぶせつこをしたりおはじきしたりして遊ぶうちに貝がらのもようや手ざわりなどに注意するやうにする。そして模様と同じたゞ一組のものがびつたり合ふのだといふことを子どもたちに合せてみさせて遊ばせ乍ら注意する。又その他さゞえやたから貝とかほたて貝とかきさごとかかきふものもあつたらもつて遊ばせる。「標本になつたやうなものなわざ／＼みせるにも及ばないけれど繪本などによい繪があつたらこんな珍らしい貝もあるのだといふことを海への關心につかげてみせることはよいと思ふ。砂場の砂の中や砂利の中にたまたまかいた貝殻をみつけると寶物のやうに大切に拾ふ子ども達で、貝殻遊びはおもしろみあるものである。

## 安村 ぶさ

一年中で最も寒い時節になりました。ストーブや火鉢を圍んでのお話にも心も充分あたゝめませう。

「節分の話」 幼稚園談話集第二輯に載せるお話です。節分の夜の事、お母さんが七輪に火を起して豆を煎りました。だん／＼熱くなりますと、其の中から炭のかげらと一粒の豆が怪へきれず飛び出してしまひました。一緒に炭取のかげに隠れて息をついて居ますと奥の方から面白い歌が聞えて來ました。耳をすまして聽いてゐると、福は内鬼は外と賑かにいひ乍ら此の家のことも達が豆を撒いてゐるのです。豆と炭は大層面白さうな様子を不思議に思つて尙も熱心に聽いて居ると、奥の方から福の神の装ひをした此の家のお父さんが「鬼を追ひ出した太郎さんには何をあげませう、花子さんには何をあげませう」とおつしやり乍ら出ておいでになり、其の望みのものを袋から出して下さいました。豆と炭は「あゝ今夜は節分の豆撒きですね、それで鬼を追ひ出して福の神を呼び入れてゐたのですね」と語り合ひ乍ら、又もとの炭取のかげに隠れた、といふお話です。節分の夜の有様と其の樂しさがよく描かれてゐます。豆と炭が飛び出して其の様子を逐一見物してゐるといふ着想が大變面白く感ぜられます。此の頃福の面や鬼の面等を作る事でせうが、夫れ等と相俟ち、こども達に昨年節分の有様を想起させ又今年の夫れに興味を持たせる様環境を整へて聽かせた

いものです。最近は何物不足の爲、かうした古式ゆかしい行事が簡略になり、又すたれたりいたします。大事な食料品である豆をみだりに撒くのは勿體ないことで如何かと存じますが、少い配給の豆も何とか都合して此のゆかしい行事の氣分だけでも味はゞせ度いと存じます。

「熊太郎」 雪國の山中での出來事です。親熊が病氣になり、食慾が一寸もなくなりました。熊太郎の懸命の看病の甲斐もなくだん／＼弱つてゆきます。其の中ふと、「お刺身が食べたいが此の寒中では駄目だらうね。」と親熊がいひ出しました。熊太郎は其を聞いて非常に喜び、すぐさま何時も釣をする池に飛んでゆきました。所が、一面の厚い／＼氷、而も其の上には雪が積つてゐます。熊太郎は大急ぎで松の木の枝で雪を拂ひのけ、大きな石を力一杯ぶつけて氷を割らうと致しました。所が、石はカチン、カラ／＼カラ／＼と走つてびくとも致しません。何度繰返しても同じ事です。熊太郎は困りましたが親熊を治したい一心で、いろ／＼考へた末、自分の温かい身體で氷を溶かさうと決心致しました。纏て一念が徹つて氷が少し溶けかかりましたので、熊太郎は今度こそ、と力をこめて石をぶつけ水を割つて遂に大きな鯉を釣り上げました。其のお刺身を食べてから親熊は急に力が湧き出し、遂々全快して又もとの様に親子仲よく暮したといふ誠に涙ぐましいお話です。之は新しい談話集に載せるものであります。二十四孝にでもヒントを得たお話でせうが、子熊の孝心、機智、躍如たるものです。親熊はどうなるか、子熊は親熊の望みを叶へる事が出来るか、興味は此の點に集中し終りまでぐん／＼惹きつけられま

す。子熊の孝心あふるゝ行動は子ども達にきつと強い感動を起させる事でせう。私達は子熊の心事に同情し、その氣持になりきつてお話致しませう。誠心は自づと其の中にこめられ、話しよりも緩急よろしきを得て一層の感動を與へるに違ひありません。

「笑ひ話」 牛と狐が宿屋に泊り、翌朝出立の時宿屋の人に又どうぞと云はれて、モウコン、と答へた等の二三の笑ひ話を新しい談話集に擧げてみました。かうした種類の簡單なもののごども達も良く知つて居ります。そして是等を話させる事はごども達の發表力を養ふ上に効果がありません。氣が小さくて大勢の前では中々發表しない子どもも、二三笑ひ話を聞かせるで元氣に手を擧げて話したがりです。談話は保姆が一方的に語り聴かせる許りでなく、ごども達の方からも話させるものだといふ建前から、笑ひ話等はその入門として丁度よろしいと思ひます。又、なぞ／＼もかうした目的の爲に都合のよいものです。ごども達ははじめはなぞなぞとして良く知られてゐるものを發表しますが、其の中に自分で考へたものを發表する様になります。夫れは始めは不完全でありつても、相手に分らせる爲にはそのもの特徴を充分捉へねばなりませんので、さうした物の見方を養ふ上にもよろしい様に思はれます。

「お天陽様と風の力くらべ」 有名なイソップの寓話。之は述べるまでもなく、旅人の外套を脱がす事について、太陽と北風が競争したお話です。イソップの寓話は簡潔、直截で、私達の感情にぢかに訴へる爲、尊ばれて居ります。此の寓話に含まれてゐる教訓は、風の身の程知らずでせうが、だからといつて風は悪かだと

感じさせるより、何かほゝゑましいものを與へます。風が眞赤になつてふう／＼吹いてゐる所を想像致しませう、そのあとで、お日様がニコ／＼なされる所を心に描きませう、何だか身體までもあた／＼かくほ／＼する様なお話です、淡い乍らもお日様の偉さに對する今更ながらの驚きが心のどこかに残つてゐて。

## 手 技

及 川 ふ み

前月號に幼児たち出来る模様かきについて、その模様の材料の實際の取扱ひ方を述べたのであるが、それに續いて模様の單位となる材料について考へて見たい。

模様の單位はやはり幼児たちの親しみの深いもの、又興味が多いものがよいのは云ふまでもない。又季節のものといふ事も考へられる。みかん、はね、風船、なんてん、など二月の季節の材料として選ばれてよいものであらう。又最も幼児たちに親しみの深い動物類や、おもちゃはいつどの季節でもよいものである。

飛行機、お人形、戦車、軍艦など、もつとも幼児たちの喜ぶものであらう。

模様の單位を作るのには始めは平面的のものがよい。形の單位が大體同じ型であるのが模様であるから、木の葉などの如く平面的の材料である場合は最初の時には實物をそのまま、引き寫しさせると幼児たちは大喜びで手輕にするのである。立體的の木の實やおもちやなどは平面のもの、様に實物をそのままに書き寫しが

出来ないものであるから、ボール紙などに一つの型をつくらせて、それを適當に配列させるのである。

自分で選んだ材料を自由畫で畫かせて、これを適當に切りぬかせて、ボール紙で裏うちをさせて型をつくらせるのである。

畫用紙などにあらひ方眼を作つておいて、その中に型をそれぞれおさめてゆくのである。

模様は模様の單位が出来て、その配列を適當にして模様が出来るのである。簡單にそれだけでもよいわけであるが、その上に更に色をぬらせる事によつて一層模様らしくなるのである。

幼児たちの選ぶ配色はごく簡單ではあるが又そこに大人には味ふことの出来ない幼児らしさの味のある配色が出来るのである。

模様は模様の單位になるものが選ばれて型を作り、その型を配列し、さらにそれに色をぬるといふ様に幼児たちの仕事としては相當連續した仕事の様であるから時間も相當にかゝり頭も使つてしなければならぬのであるから一時の仕事の分量は少くして、充分に考へる餘地を作つたり、又仕事を丁寧にして型をつくる事、その型を次々と置きながら畫く事など出来るだけ丁寧にする事などに特に注意しなければならぬのである。ことに色ぬりは出来るだけ分量を少くして、折角の模様を損じない様にぬる事が大切である。

出来上つた模様はボールの空箱を利用して紙ばさみに作つたり、お人形の着物にしたり或は手提かばんの材料にするなどいろいろと幼児たちに直接役に立つものとして利用するのが最も適切なことである。これによつて次にする仕事にも興味を深くするこ

ともなるのである。

## 誘導保育

### 菊池ふじの

スキー場 二月、外は一面の銀世界です。とは言つて見たものの、東京に住んで見て思ふことは、何と淡い雪の生活でせう。一年に多くて四五度の大雪があるか無しの有様、まして四國、九州と考へて見ますと、遙か南の暖國には、この課題は、子供の日常生活とは餘りにもかけ離れたものであるとも思はれます。そこはよるしいやうに。繪にでもよつて、話しながら、想像しながら、致しませうか？東京では丁度この課題がよつてもつて出て来る所以かも知れません。つまり、外が、来る日も来る日も銀世界、人は皆雪靴で、膝をも没する雪を踏み分け踏み分け往來して北國では、わざ／＼室内にこの課題を設けるまでもなく、外で雪合戦にスキーに雪釣りに、竹馬で雪靴で、十二分にほんたうの雪の生活が満喫出来るのですから。その點この課題は、東京には丁度いいのでせう。つまり大雪が三四度あつて、幼い子供にも大雪のぞうであるかを想像させ得る目の材料を充分に與へられるわけですし、それかと言つて、實際の雪の生活はさう満喫とまではゆかないのですから。それに近來は、運動といふことも盛になり、スキー位の言葉を知らない子供も無いからです。

砂箱があつたらそれを用ひて致しませう。砂でもつて大體の土臺を拵へて置きます。つまり一端を山、他端に向つて傾斜をつけ



ておくといふ風にでも。この上に雪を降らせませう。雪は或る時は、綿を、或る時は白墨の粉をふりかけたこともありました。今はどれも貴重な品で、こんなことに使つていゝかしら？と迷ひます。地方だつたら、摺り合せると白い粉になる石が、河原に澤山轉がつてゐるのになあ……と幼い頃の記憶を呼び起しながら考へてゐます。

一面に銀世界が出来ましたら、スキー人のたむろする小屋を作らませう。スキー小屋はボール紙で。空箱等を改造して作つた方がもつといふと思ひます。スキー人形は畫用紙で作ります。或は破れ易くて困りますがきびがらを用ひて致しますとスキー道具も人も容易です。或は粘土でもよろしいでせう。

それから、スキー場は、山の頂から四方に向けて糸を張り、それに國旗や軍艦旗を通して賑やかな會場に致しますせう。スキー小屋は先生と子供の共同製作。

スキー人形や國旗等は子供達銘々に作らせます。この個人の製作物を綜合して一つのスキー場が完成するわけです。

この課題への導き入れは、雪の降つた日を逃さず、スキーの繪を用意しておいて始めませう。幼児にも先生にもスキーの経験のあるのは大變いゝのですけど、兩方に経験の無い時は繪に頼つて、子供と共に想像しながら進めてゆきませう。

期待効果は、運動に對するごく初歩の興味、共同製作、季節への關心、と言つたやうのことにならうかと思ひます。

繼續作業時間は一週間位が適當。

ひな祭 三月三日のお雛様ですけれど、二月の半ば頃から始め

ませんと間に合ひません。

お雛様は、及川先生御考案、「幼児の教育」掲載のお雛様だけでも澤山あります。今年は何のお雛様に致しますせうか？

綺麗な伊豫粧を貼つて作るあの豪華な、ふくらみ雛、内裏様から五人雛に至るまで、皆同じ三角の立體から出来てゐる、やはり伊豫粧を貼つて作る、入れこ雛、新聞粘土で作つてゐるぐで採色するお雛様、古葉書を利用して作るお雛様(二種)、その他畫用紙で立つやうにするもの、色紙で折つてこしらへるお雛様、どれも皆それによろしく、どれにしようかと暫く迷ひます。漸く決めて自分の組のな作りますがよその組で拵へたのも又欲しくなり、時によつては二種も三種も作つて、ふうふう忙しがるのがよくあります。

かういふ時局だから伊豫粧の要るお雛様はと言つても、三十人一組の組全體の分をこしらへるのに、十枚もありますと充分なのですから、お雛様だけは、充分に美しい、いゝお雛様を作つてやり度いと思ひます。「幼児の教育」二月號に毎年新しい及川先生の御製作が發表されてありますから御参照下さい。

お雛様は、ふくらみ雛や新聞粘土のお雛様のやうに、大人の手傳ふ部分が多いとか、乾きに時日がかゝるとか言ふの、場合は、親王様と内裏様だけにする時もあり、又入れこ雛や畫用紙で作つた時のやうに、プリントが出来、銘々の子供のはたらく場合が多く大人はたゞ簡単な後の整理だけしてやればいゝといふ場合は、親王様から五人雛、櫻橋まで拵へたこともありました。

どれにしよう、いくつ拵へよう、といふことは、その幼稚園の

御事情にあることです。

かくして子供達のお雛様が出来かけましたら、共同の緋毛氈を敷いた雛壇に、そばからそばから飾っておきませう。

そして三日か、その前日ぐらゐに、子供達銘々に持たせて歸し、お家のお雛壇に今年のお雛様として、しかも御子さん自身の貴重な製作のお雛様として、新に加へていただきます。

この課題の導き入れ方は、どういふ風に工夫致しませうか。

### 「海行かば」に就て

信時潔氏の作曲になる「海行かば」の歌曲は近時、殊に大東亞戦争開戦以來全國津々浦々で歌はれ最近新紙の傳ふところに依れば、儀式等に於ても必ず「國民の歌」として歌はれることに決定した中、事實この曲も豪壯森嚴な點で近時傑出せるものだがその歌詞である「海行かば」は言ふまでも無く萬葉集載するところの大伴家持作の長歌の一部である。今その全章を掲げる事は餘白なく残念乍ら割愛するが同集卷第十八の央ごろに出でゐる可なり長い歌である。題は「賀陸奥國出金詔書歌一首並短歌」とあり長歌の後に反歌として短歌が三首載つてゐる。長歌は「葦原の瑞穂國を天降り知らしめしける天皇の神の命の御代重ね天の日嗣と知らし來る君の御代々々しき坐せる……」から始まつて先づ葦原の瑞穂の國の物資の豊かさな賞め讃へた後天平十九年聖武帝が東大寺に盧遮那佛を作られその塗料に黄金を用いたのであるが、恰もその黄金の不足を補ふかの如く時、偶々題名に示す如く僻遠の陸奥の國から本朝最初の黄金が貢ぜられたことを家持は欣び讃へ、その瑞祥を禮讃して後、それにつけても吾が大伴家こそは遠つ神祖以來忠誠軍功を誇る家門であることを愈思ひて大伴の遠つ神祖の其の名をば大來目主と負ひ持ちて仕へし官海行かば水漬く屍山行かば草むす屍大君の邊にこそ死なぬ願みはせじ」と固く誓つて來た昔からの家格である。朝に夕に劍太刀を腰に取り佩き大君の守りは我を措いて人はあらじと自負してゐるのである。即ち此の家持の誇りこそは、當時から昭和の今日まで大和民族全體の誇りであり一千二百年前に歌はれた此の盡忠の古歌の傳統こそは國民の傳統であり脈々として悠久今日に及んで國民の聲なのである。だから支那事變以來特に大東亞戦争下我等が歌ひ耳にする此の「海行かば」はほゞ魂の底から我等を搖り動かし醜の御楯たる自負心をよく表現した歌は他に無い。さながら現代に於て作られた如き新鮮純眞な感動を吾人に與へてゐるのも理りである。(記者)

街のお道具屋のお店にお雛様が出てゐることなどをなきつかけにして、もうちきお雛祭りが來ること、みんなのお家のお雛様の有様を聞くことなどから入ることに致しませう。

これの期待效果は、個人作業の綜合效果、年中行事の興味、心のやさしみ、手技と言つたやうのことが擧げられると思ひます。組としての繼續作業時間は、三週間位。

誘導「おもちゃ屋」の記録から  
保育

千葉女子師範學校附屬幼稚園 山川幸枝

本文は舊年十一月、千葉縣教育研究會に於て發表された誘導保育おもちゃ屋の實施記録です。  
案への導き入れ方とか、又は幼児達に科學させやうとする先生の行届いた心遣ひとが、おもちゃの觀察への引き入れ方などが誠によく現れてゐると思ひます。(編輯部)

十月二十日

相談會を開く、月組に動物園の計畫のある事を、それさなく羨んでゐたらしい幼児達は、此の計畫には大喜びで躍りあがつて了つた。

知つてゐる限りの玩具を擧げるのもよいが、幾分でも幼児自身が考へた所の製作豫定を、たてさせて見度い、と思つたので、次の條件のもとに、玩具を擧げさせてみる。

一、好きな玩具で作れさうなもの

二、作つて見度いと思ふ玩具

そして列擧されたものは

- 一、こま 二、兎 三、飛行機 四、かぶさ 五、奴さ  
六、着せかへ人形 七、千代紙 八、提灯 九、落下  
傘 十、時計 十一、鶴 十二、二隻舟等更に保姆の作り

度いものとして

- 一、ふら／＼人形 二、戦車 三、自動車 四、旗  
五、勳章 六、風車 七、手提 八、歌留多等。それによつて實際述べさうなものを擧げるに「ほんまに出來たらいいなあ」二同拍手して喜ぶ。

それから更に次の事を約束する。

一、これからはみんな玩具でも、さうして出來てゐるかよくみませう。

二、よく氣をつけてみたら、それを作つてみませう。

三、すぐに出來なくても、頑張つてよく考へて作つてみませう。

先生が作り度いと思つてゐるものもさうやつて作つてよいかまだわからないのだから、一緒に考へて下さい、と

云ふこ引受けた云ふ様にうなづく。

その作る材料についても木、竹、棒等の論も出たが、一番容易なものは矢張り紙なので、紙で作れるもの云ふ條件にする。「明日から作らう」「うんこ作らう」こ第一回の相談會は張切つて終る。

扱て、品物は種々舉げられたが、これを如何にして幼児の前に出して行つたらよいかに迷ふ。

幼児自身存分に活躍して、面白く遊んで、更に、協力しつゝ一つの目的に進ませるには、こ考へてみたが、さうした條件に皆叶ふ様なよい方法も見當らぬまゝに、第一回の製作には、動くもの、變化するもの、遊び得るもの云つた様な條件を備へてゐる「こま」をこりあげてみる。

十月二十一日

「玩具やさんのおもちや作つてきました」こ二三の幼児が大切さうにもつてくる。

お母さんに作つていたゞいた云ふ竹製の手槽、モール製の植木鉢、人形等。

なるべく自分で作つたものを、さもう一度念を押しておく。

数名の幼児と共に花ごまを作る。普遍的な意味で櫻ごまにしてみた。クレオンを濃くつかはないこ葉書の字が消えないので、濃くぬるこ輪廓線が不明瞭になるから先にきり

ぬかせる「きれいだきれいだ」こ大喜び。段々希望者が増加して十数名こなり、机も隣組を作る。隣の机からわざ／＼相談に來たり、よく廻るこ報告に來たり、なか／＼賑やかになる。切つて塗れたものに揚子を通してやる。かた／＼す事は注意せずにおいて幼児の發見をまつ。幼児達は廻してみて次に舉げるやうな種々な發見をする。

一、花びらのきり込みがまはるこわからなくなつてまらく見える。

二、塗つた色が廻るこ薄く見える。

三、まんなかを通さないこすぐ倒れて了ふ。

四、倒にしてもよく廻る。

五、こまの脚が長すぎるこよく廻らぬ。

六、芯の穴が大きくなるこよく廻らぬ等

一こ二は不思議だ云ふので、いろ／＼な論が出たが「うんこ早く廻るからさう見へるのだ」云ふ幼児があり、一同それに賛成して終る。

「面白かつた、明日は皆で澤山作らう」こ意氣込んでゐたが、翌日も翌々日も手不足や事故多く、心豊かに製作にきりかゝる折を失つて了つたのは残念であつた。

その間、簡單な摺紙や千代紙製作で、玩具屋の店が追々賑つてくるのを楽しむ様に、ぼつりぼつりこ思ひつきの物を作つては飾つてゐる。

十月二十六日

今日から教生の保育實習が開始され、新しい十一人の先生を迎へて、幼児は朝から落着かず騒ぎまはる。そこで自然に遊びの中から入つて行く積りの計畫を止めて、一齊的にこま作りをする。始めの騒ぎも製作に入るに静かになつて一同一生懸命だ。

櫻、梅、圓形、の三種

圓形のものはその面を二つに別けて彩色し廻してみて色の變化を發見させる、友達同志比べあつて面白く一時を遊ぶ。花組の人も仲間入りして、倒立ちの上手なこま、なご別けて遊んでゐる。

そのうちに一人がこまが飛ぶ事を發見する。指先の力をぐつと増すと、空中滑走をしてきんでもない方にきんで行く。こぶ事はこぶが、こばせ度い方になか／＼こばない。「プロペラの様だ」由返りをするに相當長時間繼續して遊ぶ。

十月二十八日

昨日は教生の最初の實習で製作に入れなかつた。今日は朝の未だ静かな時、繪本をみてゐる幼児の傍で戦車の彩色をしてゐるに「あ、戦車だ僕にもさせてね」お辨當を置くのももさかしげに集つて来る。内氣な人達が進んでするのにも恥しげに、けれぎ去りがてにしてにこり／＼「やり度い

？」「またずねるに「うん」はつきりした返事だ。忽ちに机が満員になる。

迷彩がなか／＼うまくゆかず早く形を作らうとあせる人達へ、順々に叮嚀に仕事をしなればよいものが出来ない事を注意しつゝ、眞實の戦車を作る職工さん達の眞剣な作業振りを話してゐるに、色を塗る手が俄然活潑になる。男の子の作業をみてゐる女の子達に「こんな玩具があるのよ」に準備しておいた人形を見せるに、にこり／＼して「一人で出来ませう」にさつさ空いた机にもつて行つて了つた。

女兒も忽ちに超満員。教生も加はつて賑やかにたのしい製作に入る。戦車は十臺が迷彩を終る。人形は十八人出来る。戸外遊びに夢中だつた數名が手を洗つて入つて来て、おや、さ云ふ様な顔をした。その人達には明日製作する事を約束、迷彩を終つた人達は、得々嬉しげに、明日は機銃屋を作るのだ、頑張つてゐる。

十月二十九日

朝、顔をあはせるより早く挨拶もそつちのけで「昨日の戦車の續きをやらせて」に云ふ。「僕もつこんで駈けて来たんだ」に汗をかいてゐる。昨日の續き、今日は機銃屋を作るのだつた。出してやるに「さこをきるの、さうやつたらいゝんだらうなあ」何でもやつて貰ひ度い氣持がすいぶん少くなつて、自分でやらう、さ云ふ氣持に溢れてゐる事は

實に嬉しい。そのうちに「あ、何だか變だよ、先生、なかなか出来ないよ」悲鳴をあげる。みるゝ點線をきりさつて形にならない。「點線は折る所、これゝ君のゝゝこが違ふのでせう」こ比較して見せるゝ「間違へちやつた。やりなほ

しだ」今度は非常に慎重な態度でゝりかゝる。「しつかりゝ強い日本の戦車を作つて下さいよ。進まうゝ思つたらこわれちやつたなんて戦車ぢや駄目ねえ」ゝりまいてゝた數名が、笑ひながら「大丈夫、丈夫なのを作るよ」ゝ自信満々。然しゝうにも銃座が少しむづかしい。何ゝかならぬかゝ苦心してゝるゝそれをじつと見てゝた一人が「先生この所も塗らないゝ敵の飛行機にみつかつてちやふじやないか」ゝ云ふ。そのうちに「出來た、先生、僕こんなに勇ましいのが出來たの」ゝ云つて持つて來る。「立派ね、陸軍のしゝるしもつけましたか」ゝ云ふ間も途中迄きいて、保姆の手からゝりかへすより早く「勇ましいなあおい戦車だーい」ゝ遊戯場の方へ駆けて行つて了つた。濃くクレオンを塗つてゝる所に貼りつける事はなかく困難な仕事「僕、便所へ行き度いんだけゝ離れちやうゝ困るなあ」ゝ云ふ人へ、僕が押へてゝ上げるゝ五六本の手がのびる。幼い協力がこんな所にもある、女の子達は人形の姉さん作りに忙しい。塗る事も、切る事も、貼る事も馴れたものでぎんゝやつて了ふ。放課後敎生の人達に人形の着つけを依頼する。色彩を

美しく、なるべく立體的な感じを出す様に工夫してゝみる様にゝの條件のゝゝに。

十月三十日

玩具屋の店が、色ゝりゝの着物の人形でバツゝ明るくなつた様な氣がする。女兒は皆集つてきて、いろゝゝ評議してはにこりゝ。更にお母さんを作りませう、ゝ云ふ事になる。男兒は保姆ゝ協力してくゝだまを作る。

保姆の切りぬいたのを、のばす人、重ねる人、分類する人等わけあつて、八人の子が三十分位協力する。

十月三十一日

男兒協力してくゝだまを作る。糊ではつて重ね、まるくなるゝ大喜びで「赤ちやんに上げ度いなあ」ゝ云ふ人もある。くすだまの下に鶴をたゝんで下げる。下げる紐にも美しい圓形の貼紙を重ねて貼りつけてみた。風に吹かれて自然に廻り出すゝ「ほんゝの玩具の様だ」ゝ喜ぶ。女兒は美しい花簾を一枚いたゝいた事からまゝゝ遊びに夢中、よつて製作はお休みゝなる。

十一月二日

研究会に關する打合せ。それ等のための人の出入に對する應接等に煩はされて、なかなかのつくりゝ、幼兒ゝ共々の製作に向へないのは残念だ。今日も幼兒は一人で戦車の作りかけをもち出してせつせゝ繼續してゝる。

「もうこれで三臺目だ」と自慢してゐる。

勢力家達が朝の間を、靜かに製作に向つてゐるので、いつもは押しつけられ勝の靜かな人達が積木を頑張つてゐるのも面白い。製作によびかけ様としたが中止。そつとそのままにして置く。

十一月四日

戦車の繼續。すつかり刷れてゆつくりした氣分で製作に向つてゐるのがよくわかる。迷彩が大變こまかくなつて来た。教生さん達少し親切すぎるので注意しておく。

十一月五日

看板を作る。八人の幼児が一生懸命に貼つて美しく出来る。出来てから掲げる所の事で相談、お部屋の入口か、今商品の飾つてある所へさげよう云ふ説。多數決で商品の竝んでゐる上にさげてみる。また花組の人達に新しい下駄箱が出来てきて、今までのものが不要になつたので、それをもつてきて飾り窓に工夫する。人形を箱に入れて此の飾り窓においたら買上げの申込みが殺到する。

男兒は勳章を、女兒はフラ／＼人形を作る。今日は月組の動物園も一段落と見えて、自發的に玩具屋の勤務奉仕を志願。押すな押すなの盛況で材料の供給部は大あはて、但しそれだけに賑やかで活氣溢れるばかりだつた。

十一月六日

男兒は勳章の續きを、女兒は乳母車を製作。色々な用事で席を立つてのみ居た事は申譯ない限り。乳母車の彩色は稍々むづかしいと思つたが、難なくさりあげてくれるのでほつとさせる。第二回の勳章作りはもう堂に入つたもの、胸につけて威張つて歩いてゐる。

空箱を三つ、何にし様か考へてゐたら電車を一決、早速さりかゝつたがさう／＼少しばかり残つたので明日の事にする。

戦車も、乳母車も皆明日繼續する事にする。

十一月七日

公開研究會當日。八時頃からそろ／＼お客様が見えはじめ。める。

電車、戦車、乳母車、勳章、幼児達は思ひ思ひの場所に陣さつて思ひおもひの製作をはじめ。今日の製作豫定は此の夏、及川先生から御教へいたゞいた金魚鉢をかへた木鼠籠、小鳥籠の豫定だつたが、その朝になつて、急に主事の用事で保姆一名は手が空かず、二人で三組かけ持ち云ふ事に早がはり。こんな時一つの主題で計劃してゐたら、今更の後悔も後のまつり、お客様の應接もあり、常より何一つ幼児達の中へ打込んで行けないのは残念の極みながら、今日だけは變更する事も出来ない苦しい立場に、保姆科の生徒に大體の中心を命じ、あちこち忙しかけ

廻る。誰が来ようが悠々たる幼児に比べて、何ぞ保姆の氣持の目まぐるしさ。共に行ふ事を目標として来たのに、此の日に限りさうした事も空しく、「さうして此の籠の中にリスが入るのだらう」と廻しつゝ語りあつてゐる幼児達の中に、「何故?」「それならかうしたらさうなるでせう」と第二段の疑問を提出して考へさせ、思ひつきをやつて試してみるところまで行き度かつた計劃も引込めて了つた。

講師先生御着の時間も切迫、残る一人に萬事をお願いしてさび出し、戸外の冷たい空氣にふれると、はじめて一人靜かな心にかへり、朝からの來し方を思ひ、何故か涙がこみ上げて來た。それも倉橋先生のいつにかはらぬ御溫容に接しては唯もう嬉しいばかりの心にかへつて何事も忘れ、歸園してゐるに、作業は既に終つて、保育室はきれいに片づけられ、玩具やの店先きに小さい組の人達が木鼠籠をぐるぐる廻して評議してゐるのみ。柵の片すみに置き忘れたらしいクレオンの名前を調べてゐるに「それね先生、誰かの忘れものです」と一人の幼児が報告に來た。(以下略)

## 保育實習科生徒 募集について

今年度の東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集の大略は次の由にきいて居ります。

募集人員 凡二十四名

出願期限 二月一日より同月二十八日まで

試験期日 三月中旬頃

官報廣告 一月十日頃

委細は東京女子高等師範學校教務課（東京小石川區大塚町三五）につきその詳細をお聞き下さい

(編輯部)



# この子達をよい子に

附屬幼稚園 清水光子

空の軍神加藤少將の母堂が少將の幼時を語られた中に、「何も取立て、特徴はなかつたがたゞ丈夫で、素直な子でした」ミお言葉があつたのを、「母親達はよく味ふべきだ」ミ記してあつたのを何かの記事でみたけれど非常に心にしむものがあつた。素直さ、それは子ぎもの躰の上の一つの大きな目標としてよいものではないだらうか。

素直にするにはこちらの心がまづ素直でなくてはならないし、素直になるやうな環境さはいはうかまはりの何もが素直でなくてはならない、素直ならざるを得ないさいふやうでなくてはならないわけである。

子ぎも達が歸宅したすぐあごの保育室でのあのいつものひさゝき、又今日も幾人かの子ぎも達を叱つた、何だか一日中叱つてばかりるたやうな氣がする日もある。かはい、あの顔この顔、可愛い、からこそ叱るのだけれど、いつも大でい叱る顔がきまつてゐるやうに思はれる。叱るさいふ程でなくても注意するさか反省させるさか氣持を轉換させ

るさかいふ手段をどんな時に取つたかを考へてまごめてみるさ次のやうな場合があるやうでそんな時にさういふ態度で臨んだかを反省してみてもありのまゝにかき皆様の御叱正を仰ぎ度いと思ふ。

一 正しくないこと。子ぎもは天使の様ださいふ人もあれば又さうして中々天使どころではないさいふ人もあるけれど、子ぎももて美しい面ばかりではなくやはり人間の子ぎもである。ごくたまではあるが驚く程の事もある。正しくない、さいふ中には所謂「うそも」入るし「ごまかし」も入るし、何かを「かくす」こごもこの中である。

二、ふざけること。たゞ騒ぐのならばまごごに可愛い、場合もあつて一口に叱るこごは出来ない。けれど生活態度にまで「ふざけ」があつては大變である。生活指導さいふけれど生活態度を指導することが根本ではないであらうか、素直に、本氣になれるやうに、もつこも、多くのさいふより殆どの子ぎもは何にもかに、一生命命なのはあ

るけれど、ぐつミ本氣に、何でも素直に入つてゆける子  
 どもにしたい。

三、團體生活のきまりを破ること。子どもが自分獨りな  
 らば何でもないところでも幼稚園といふ小社會の中に入れば  
 いろ／＼な制肘をうける。お道具箱を出すのにさつさへ行  
 つて人をのけて自分のを出してくるさいふやうなところでも  
 さうであるしみんなが待つてゐるのに一人ゆつくり自分の  
 好きなことをしてゐるさいふ様なのもさうである。

四、他の人と協調しないこと。子ども同志のけんくわは  
 大ていこれである。いちわるをしたり自分獨り天下で威張  
 つて誰でもをしたがへて言ふことをきかない怒るさいふ  
 やうなのもさうである。我まゝに入る事はみんなさう  
 であらう。けんくわと言つてもまことにたのもしい互に護  
 らないのもつともさいふのもあるけれどその様な時は扱  
 ひ方を考へる。又お友達同志や先生に對してやたらに反抗  
 的になる言ふことをきかないさいふのもこの中である。

五、亂暴。大した原因もないのにたゞたたく事が面白い  
 さいふ様にたゞく事があつたりする。大てい年少組の子ご  
 もに多いけれど。又氣に入らない事があるさう手が出る  
 子ごもゝある。大ていはわがまゝな子ごも多いやうで  
 ある。

六、約束した事を破る。先生が子ども達みんなを約束し

た事を故意にやらない様な場合である。これは相當強くない  
 けない事にして度いと思ふ。お窓に上つてはいけなないさか椅  
 子を持出して遊ばないさかいふやうな事でも、お友達を呼  
 び捨てにしないさかでも同様約束は必ずまもらせ度い。そ  
 の代り約束はよく吟味してからするのは勿論である。

この他種々の場合があつてこれだけでは盡せないけれど  
 それをさういふ様に扱つたかを考へてみよう。

「いけません」と「よませう」

一郎さん二一郎さんが砂場で遊んでゐた。積木の電車が  
 一臺なのに二人も欲しい。取りつこ。積木でたゞき合  
 ひ。そんな簡單なよくある可愛いけんくわでもけがする  
 やうなあぶない時はい「いけません」を激しく止めさせる  
 事が多いのだけれど、同じ意味ではあるが成るべく「よし  
 ませう」さいふ言葉を使ひ度いと思つてゐる。外へ持出さ  
 ない約束してある小さい積木をいつの間にか外へ持つて  
 出て兵隊ごつこの爆弾にしてゐた。紙飛行機が四角な積木  
 の爆弾を抱いて敵トーチカを爆破にさんでゆく。誠に面白  
 さうでそのさかんな意氣はたのもしい。けれど約束を破る  
 ところでもあり、又敵さはいへ日本の子ども兵隊が危険で  
 ある。即刻「積木の爆弾いけません」の通告を發する事にな  
 る。そのかはり「積木は角があつてあぶないからこれを爆  
 弾にするさいふでせう。そしてトーチカにおさすので兵隊

さんをねらひつこなしよ」言つてぎんぐりを渡す。子さ  
もはかへつて喜んで素直に投げた積木を拾つてかごに入れ  
てから又戦争をつつけた。

一子さん三子さんは仲よしでいつも二人で遊んでゐる  
のはいゝにしても内緒ばなしさいふあのおやな耳うちをよ  
くする。「三子ちゃんは一しよにあそばはないのね、あれだか  
らね」な言つてゐるのだ。「こそこそ話はよしませう」一  
子さん二子さんの場合に限らずこんな時はいつも同じこの  
言葉で止める事にしてゐる。

今朝新しく長い白墨をもつて來たのに、觀察の「キク」こ  
いふ字を書かうとして白墨入れを見たらさうしたのか一本  
もない。黒板にはさつき三郎さん三郎さん達が軍艦の繪  
を書いてゐたのが残つてゐるが、それで使ひ切つた程では  
ないので「三郎ちゃんさつきの白墨もうないかしら」さき  
て見た。「うん、五郎ちゃんを持つてゐたけ」さきい  
五郎ちゃんは一寸くせがあつて欲しいものをしまつてしまふ  
ことがよくある。それで「五郎ちゃん白墨を先生にちよう  
だいね」さきいて見た所「僕知らないよ。もつてゐないよ」  
この返事。「さう、それならいゝのだけさ困つたわ」言つ  
て方々さがし、やつこ小さいので用をすました。「五郎ちゃん、  
お道具箱もつていらつしやいな、切紙しませう」「さ誘  
ふ、先生、僕の缺ないの」「さう、さがしてあげませう」

五郎ちゃんの抽斗をあけて見るさお帖面の下の方に缺が  
あり、猶、件の白墨がいくつもしまつてあるのに氣がつい  
た。「五郎ちゃん缺ありましたよ、お帖面の下の方に入つ  
てましたよ。それからほら、白墨ね、五郎ちゃんはだまつ  
て缺だけを引たくるやうにして自分の席に行かうとする。  
」「一寸まつて。五郎ちゃん、さつき先生が白墨つてきた時  
……」さきかうしたのがやめてた。「白墨これ幼稚園のみん  
なが使ふのだから、僕一人がしまつておくのはよしませう  
ね。それから先生がきいた時知つてたらずぐ教へてね」五  
郎ちゃんはだまつてうなづいてゐた。

お歸りの仕度で竝んで携帶品置場に帽子、オーバー、バ  
スケットをさりに行く。一子ちゃん、六郎ちゃん七郎ちや  
んが泣きさうになつて僕の、私の帽子がないさ言つてく  
る。さがしに行く、かゝつてゐない、さここにもその邊に見  
當らない、おへやに戻つておへやもさがすがない。「先生  
あそこかも知れないよ、さつき五郎ちゃん、あそこ見てゐ  
るから」一郎さんは先立つて走つてゆき携帶品置場のバス  
ケット棚の裏をのぞいて見た。あつた。帽子三つがくしや  
くしやになつてゐた。「よかつたのね、だけさ一郎さん見  
てゐたの」「うん、五郎ちゃんが何かしてたから」お室に  
歸つたら五郎ちゃんがこちらを見た。「五郎ちゃん、一子ち  
やん達、お帽子なくつて困つてする分探したのよ、あんな

所に入れる事でもいけない事よ。よしませうね、これから決してしてはいけませんよ、「この時はきつく、こわい顔をしてはつきり言つた。

「……するごと、いゝごとかしら」

「先生、飛行機の紙ちやうだい」「今日は一枚づゝね。紙は大事に使ひませう。飛行機大事にするのよ。」古雑誌のほざいたのを一枚づゝ渡す。さつそく思ひ思ひの飛行機が日の丸さへ描かれて飛立つ。ふみ見るに四郎さんと五郎さんがお池へうかべてゐる。水上機のもりだらう。四郎ちゃんのはすぐ飛立つたが五郎ちゃんのはその上に砂利や砂まで積まれたものだからたまらない、沈みさうになつたのを引上げたがもうさべなくなつてしまつた。「先生、飛行機お池へ落ちゝやつたからもう一枚ちやうだい」「今日は一枚つてお約束だつたでせう、みんな一枚づゝなのよ」「だつて欲しい」「五郎ちゃんお池へ入れて水上機にしたのね」「うゝん、僕さばしてゐたらおつこちちやつたんだ」「あらさうかしら、おまちがへぢやないかしら、そんなこと言つて、いゝごとかしら。わかるのね」「本さだい、本さだい」「さうなの、先生こゝで見てもたけき、先生のお目々がちがつたのかしら、さうぢやないさ思ふけき」「五郎ちゃんは黙る。

「この飛行機、きのふのよ、これお使ひなさい」少ししわだけれき昨日誰かゝ捨てた紙を渡した。しばらく二子さん三

子さん達のまゝこゝで遊んでゐて来て見るに、この次にさ残して置いた飛行機用紙が殆んなくなつてゐる。あら、さ思つてみるに一郎さんも二郎さんもみんな二機三機さ持つてゐる。「新しい紙、さうしたの」「五郎ちゃんが呉れたの」「さ異口同音の返事。「五郎ちゃん一寸いらつしやい」五郎ちゃんを向ひの空いた部屋に呼んだ。少しこわさうな顔をしてゐるのを見るに、何だか少し物々しい自分の態度が恥しかつたけれきも勇氣を出して「ね、先生は五郎ちゃんをいゝ子にしやうさ思ふからいふの、わかる？、先生がいけないさ言つた事はよすのだつたでせう。だまつてあの紙出して、いゝごとかしら。今日は一枚づゝさいふお約束で、あさはしまつておいてあした又上げやうさ思つてゐたのに出してしまつたら、明日の分がなくなるでせう。みんなにあげてあなただけになくてもいやでせう。」「いゝよ、いらぬいよ」「さう、そんなに先生のいふごことが判らないならもう幼稚園に来てはいけないつてお手紙かきませう」「さ席を立ちかけた「いや、お手紙書いぢやいや」「そんなら判る？、いけないさ言つたごはよしませうね」「少時だまつてその手を持つてゐるが」「さあ判つたらいきませう」「さ一しよに外へ出た。

三郎さんが泣いてゐる。「さうしたの」「みんながね、三郎ちゃんのお靴遠くへなげたりお砂かけたりしたの」「目撃

者の三子さん四子さん達が口を揃へて言ふ。さう言はれてさすがの猛者達手をつかねて立つてこちらをみた。「さうしてなの」だつて五郎ちやんがいぢめちやへ言つたんだもの「五郎ちやんさうしてなの」だつて、二郎ちやんの背中へ砂入れるんだもの「うゝん、僕、お手々さうやつたら入つちやつたんだ」三郎ちやんは泣き乍ら砂の手をはらひ乍らいふ。それはさうらしい、「ね五郎ちやん、一人をみんなでいぢめるなんて、強い人がするさかしたら、日本の兵隊さんはいぢめたりしないのよ。みんなもさうよ、一人の人をみんなでいぢめるなんて卑怯なこゝ。誰だつてみんなでいぢめられたらいやでせう。よしませうね。さあもうお手々洗つて、おへやに入リませう。」みんなを促して入つた。

「……したらどう。……しないで斯うしませう。」

「先生、二郎ちやんあんなこゝして」といふ聲にこちらの粘土の汽車つくりの手を休めてみるに、白い壁一面に粘土のつぶてをぶつけてゐる。「まあ」と言つたきり、二郎ちやんも面白くてやつてはみたものゝ、さすがにきまりわるさうだ。二郎ちやん、ちやもうお粘土やめて外でお砂遊びしませう。そしてお山くづしつこしたらさう、お山をつくつて、かたいおだんごつくつて、それでお山をこわしつこするのよ」もつこ何か言つた方がいゝかとも思つたけれど明

らかにわるいこゝを氣がついてゐるのに思つてさう言つた。二郎ちやんはうなづいて手を洗ひに行つた。

中々に所謂いたづらの激しい五郎ちやん二郎ちやんを中心にした斯うした記録はつきないけれど、斯うして書いてる乍ら、その可愛いゝ一人一人の顔が浮んで来るに同時に、よく考へて見るにあまりせゝこましく言ひすぎるやうな氣がし、自分の狭い氣持が反省せられてつらくなつてくるのである。たゞこの今の時代輝しい日本の國に生れて、將來世界を背負つて立つ大切な皇國の子ごもを育てるこゝの光榮を思ふにつけてもさうかしてこの子ごも達をよりよい子にしたいといふ一ぱいの氣持、何時もして來た記録であるこゝを讀取つていたゞければ幸々思ひ攔筆する。

(三五頁より)

寸した機會に問題は消滅してしまひます。然も嫌ひといふ氣持も、嫌はれる理由も、ごく淡いものであるかも知れません。今は仲よく遊べるあの子の事をかうして書き立てるのが大變心苦しく感じつゝも敢へて書き、攔筆する事に致します。

## 友達から嫌はれるこども

附屬幼稚園 安村 ぶさ

こどもがこどもらしく振舞つてゐる限り、「あの人嫌ひ」  
と判然いはれる事がさう多くあるでせうか。今、幼稚園に  
於て嫌はれたこどもに就いて友達から嫌はれるこどもはき  
んな子か考へてみる事に致します。

入園して暫くは眞の自分が十分に出ませんが、だんく  
慣れて打つけた樂な気分になるに多少我儘が出て來ます。  
問題はきつゝ其の時に起ります。其の時に、先づ「あの人  
嫌ひ」を對象にされるのは、其の組での亂暴な子でした。  
例へば、わけもなく他人をぶつたり、抓つたり、他人のも  
のをこわしたりする子です。この様に振舞ふと、さうされ  
たこども達は、その子が體力的に勝れてゐる時は怖がりま  
す。それ程でもない時には厭がります。それが、「あの人嫌  
ひ」になる様です。私はその子が他人に對してさうした行  
動を爲した後の味の悪さにしよげてゐる様な時に、さうし  
た行爲は他人の好意的な注意を惹くものでなく、たゞ厭が  
られ、嫌はれ、結局切望してゐるのに反して共に遊んでも  
らへない、こいふ事を示しました。或ひは語りきかせて、

或ひは友達同志に示させて。何遍も根氣よく繰返してゐる  
中に此の子はさうした亂暴をしなくなりました。そして、  
たゞ、かつて亂暴だつたこいふ印象を残した丈で嫌はれな  
くなりました。

其の中に、おせつかいをする女の子が皆の目について來  
ました。末つ子なので、家で姉達にされてゐる通りを友達  
にしよつゝするのです。

「あなた、かうしなさいよ」「かうするものよ」「そんなこ  
こしちやいけないのよ」が、この子の口癖でした。然もよ  
くいへば粘り強い、悪くいへばしつゝこい。何時までもく  
よくする性質のこどもでしたので、遣り方が念入りで中  
々うるさいのです。例へば去年の十一月頃の事でした。中  
うか、誰かゞ羽根つきを始めました。するに「あら、まだお  
正月ぢやないのに羽根つきなんかしてゐるわ、をかしいわ  
よ、お止しなさいな。」とわざと、こめに行くこいつた調  
子です。所謂融通のきかない部類の子でせうが、さも自分  
は譯が分つてゐるこいふ口調なのです。又、「こつちへいら

つしやいよ鬼ごっこしませうよ。」「私、おまゝ事してゐるから厭。」「あらさうして私に遊ばないの？ ね、いらつしやいよ、ねえ。先生、誰さんは一寸も私に遊ばないんですよ。」「さひひに来る仕末。他のこども達の始めた遊びには加はらうとしないで、さうにかして自分のする遊びの方に惹きつけようならはに努力してゐるのです。それが成功した時には如何にも得意げであり、嬉しさうですが、自分の思ふ様にならぬ時は何時までもしつゝこく何やかやいつた揚句に横目できつ顔をするのです。然もこの子は體力的にも技能的にもそれ程優秀ではありませんでしたので惹きつける力が弱く、何時も不満が多かつたのでした。こんな状態でしたので、友達から「あの人うるさいから厭。」「しつこいわね。」「おせつかいだから大嫌ひ」といはれる様になりました。

始めは、男の子も女の子もいりまじつて一緒に遊んで居りましたが、その中に男の子は男の子らしい遊びを、女の子は女の子らしい遊びを、それ／＼別れてする機會が多くなりました。女の子達は何時の間にか一人の體の大きい子を中心にして遊ぶ様になりました。其の子は生れも早く、所謂頭もよく、第一何事にもこせ／＼しないのが取柄でありました。そして中心になつて次々に遊びを考へてはお互ひに協力的な態度で愉快に遊んでゐるのです、かういふ様

子を見るに此のおせつかいな子は益々殘念らしく、しきり妨害する様子態度に出ました。そして勢力の挽回につめてゐるのですがさうすればする程ぬけものになされてしまふのです。そんな時此の子は黙つて涙を浮べて私の方に寄つて來ました、それで私は今度も亦、さうした態度をみる事は皆に厭がられ嫌はれる許りである事をくり返し示しました。其中、此の子としては妥協かも知れませんが私の望んでゐた態度が少しづつ見えて來ました。即ち女の子達の遊びは協力し、自分の存在を主張する事なしに愉快に遊びを続けようといふ態度が見えて來たのです。さうなるにこども達は此の子を仲間に入れる事に吝かではありません。ましてこどもです、何時までも前の事に根を持つてゐるわけではありまうん、次第に何の不思議もなしに一緒に愉快に遊ぶ様になりました。そして其の後學校ごつこ等の際に字がよく讀めるといふ點から屢々先生に選ばれる程になりました。ある敬意さへ拂はれて。従つて此の子の氣分もぐつと和ぎ凡ての點に落著きが出てまゐりました。そして今では、かつて嫌ひだつた人といふ感じさへ起させない様になつたのです。

かうして考へてみますと、在園中を通じて「大嫌ひだ等」爪はじきされる様な子は餘りない様であります。何れも一

# 幼兒製作の双六・カレンダー

— 十二月の保育の中より —

## 附屬幼稚園

双六 十一月末から始めた双六が漸く出来上りました。

子供には、街で賣つてゐる双六の様に、或る一つの繪ミ次の繪ミの關聯をつけさせることは六ヶ敷いので、戰爭双六ミかお客様双六ミか言つて、戰爭の發展してゆく大體の概念、お客様に行つて取る大體の經過の概念を與へますミ、双六らしく、一通り纏つたものが出来上ります。戰爭ミか、お客様ミかの聯絡が取れない子供には、動物双六ミかお人形双六、葉つば双六なミ、言つて見て、葉つばなら葉つばで、各枚異つた葉を描かせるやうにするミか、動物双六なら各枚異つた動物を描かせ、動物ミいふこミで統一するミ言つた風にするミ、ミても面白いものが出来ます。上の寫眞は澤山出来た中の一枚で、まづ戰爭双六ミでも呼んだらよろしいのでせうか、戰爭に用ゐられる一切のものを描いたものです。

自分達の作つた双六がしたいミ言つて、お正月になりませんに毎日致して遊びました。お正月のお休みに持つて

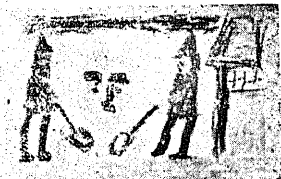
歸つて、嘸や得意満面、家中の人を加へて毎日遊ぶこミでせう。

カレンダー 十二月の保育材料ミしてカレンダーを作りました。一枚の畫用紙に曜日や日の數字を書き入れる爲の線を謄寫して與へました。今迄靡げだつた數字ミか曜日の字なミは、これを致しましたら急にしつかりもし、はつきりもして來て、もう直ぐ國民學校に行かうミしてゐる幼兒には大變いミ材料だミ思ひました。

各月の繪柄は、その月にあるいろくもの概念を一度みんなに與へておきます。例へば一月には羽根つき、双六、歌留多、爪上げなミが行はれるこミをよく言つてやりました。出来上つた十二枚を並べて眺めて見ますミなかく面白いいミカレンダーになりました。これから一ヶ年の間飾られて、實用にもなるし又吾が兒の繪ミ字の鑑賞ミもなるこミでせう。

(菊池)





三月

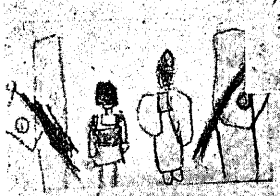
日	月	火	水	木	金	土
○	1	2	3	4	5	6
▽	7	8	9	10	11	12
△	13	14	15	16	17	18
◇	19	20	21	22	23	24
○	25	26	27	28	29	30
▽	31					



三月

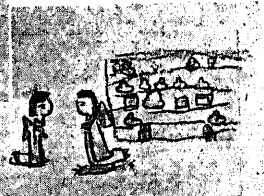
日	月	火	水	木	金	土
○	1	2	3	4	5	6
▽	7	8	9	10	11	12
△	13	14	15	16	17	18
◇	19	20	21	22	23	24
○	25	26	27	28	29	30
▽	31					

昭和十八年三月  
 アカホシタカ  
 コドモヨヨシ



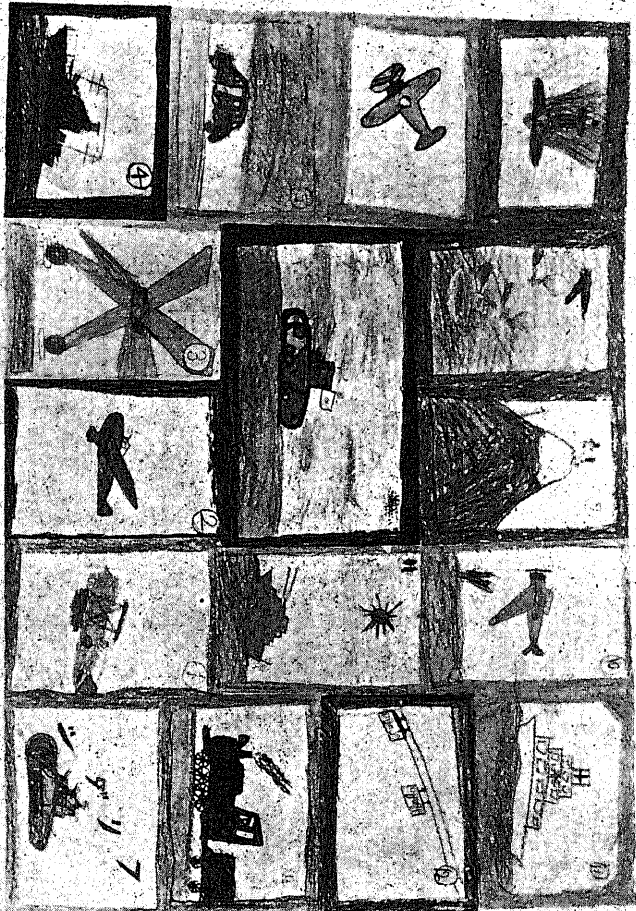
四月

日	月	火	水	木	金
○	1	2	3	4	5
▽	6	7	8	9	10
△	11	12	13	14	15
◇	16	17	18	19	20
○	21	22	23	24	25
▽	26	27	28	29	30
△	31				



三月

日	月	火	水	木	金
○	1	2	3	4	5
▽	6	7	8	9	10
△	11	12	13	14	15
◇	16	17	18	19	20
○	21	22	23	24	25
▽	26	27	28	29	30
△	31				



鈴木 二

# 兒童心理學 (第十講)

牛 島 義 友

## 食事の問題

これまでの話に於て親子の問題、智能の問題、劣等感の問題等を取扱つて行つた。これ等は夫々子供の中に見られる問題であり、困つた問題や何さかしなければならぬ問題であつた。

子供の問題としてはこの他に尙色々な問題がある。例へば食事や睡眠に關した問題、夜尿症や性的行爲、神經質的習癖、癲癇、虚言等の行爲に關したもので、更に不良行爲になつた悪質の行爲等もある。以下に於てはこれ等の問題を取上げて行こうと思ふ。

幼児の躰に於て先づ手こずるのは食事に關した問題である。教養相談に来る二、三割の者はこの問題に關してをり、これ以外にも食事に問題を持つた子供が非常に多い、白亜館の榮養に關した委員會では五割乃至九割の子供が食事に關した問題を持つてゐるに違ひないを推定してをる。

食事に關した問題としては、食慾不足、食慾過度、異物食ひ、悪習慣、嘔吐等が數へられる。これ等の問題の起る原因は一つは生理的なものであるが、教育的心理的原因に基くものも多い。故に先づ身體的異常を確めた上で、心理的原因を考へて行く事が必要である。

食慾不足 「うちの子は一向に食べたがりません」  
「か  
人參や魚を嫌ふ」  
「さか或は「誰かそばにゐないを食へませ  
ん」等三訴へる場合が非常に多い。食慾は健康の指標の  
様に考へられる處から、少し食慾が無くなるを親たちは大さ  
はぎする傾向がある。食慾不足の原因は併し、色々な事か  
ら生ずるので、必しも、健康状態から來るものではない。  
アルトリッチはこの原因を列舉してゐるが、参考までに掲  
げてみよう。

### 一 心理的原因

#### A 子供に存するもの

##### 1 反抗

2 注意を惹く手段

3 目的を達する手段

4 他の事に一時興味が奪はれて

5 親や兄弟の遺方を真似て

6 甘やかされた子供であるため

7 不安状態

8 不幸や其他の気分

9 白晝夢

10 好き嫌ひ

B 親に在るもの

1 食事の習慣付の不定

2 色々な方法で手をかけ過ぎる

3 不適當な取扱法

4 不定見

C 食べさせ方に在るもの

1 強ひて食べさす

2 食べさせようとして口やかましく言ふ

3 食事に關し心配し過ぎる

4 食べたら褒美にお話をしてやる等の遺方

5 食事の前或は食事中の興奮

6 餘り行儀をやかましく言ふ

7 食事中の好ましくない環境

8 遊び乍ら食べる

二 身體的原因

A 病氣

1 慢性、急性の傳染病

2 心臓、肺臓、腎臓の障害

3 生齒

4 貧血症

5 内分泌や胃の活動障害

6 神經症

7 悪性腫物

B 衛生

1 新鮮な空氣の不足

2 運動不足

3 日光不足

4 睡眠不足

C 食物

1 食べ過ぎ

2 食事と食事の間が短かい

3 間食

4 脂肪、糖分、澱粉の過多

5 ヴィタミン不足

6 秘結させる様な食物

食慾過度 極度に食慾が旺盛なのは精神薄弱者に屢々見られる。彼等は止める事を知らないのである。併し發育期や運動した時或は愉快な時に餘計に食べるのは勿論問題にならない。

異物食ひ 白痴の子等には屢々砂や灰や石灰や紙、木、石、石鹼等を食べるものがある。正常兒にも斯かる異物を食ふ者がゐるが、斯る習慣は専ら幼時に作られるから、其時に矯正すれば直る。

食事の悪習慣 食べるのに時間がかかるといふのが最も多い悪習慣である。之は食慾不足と關係があり、食べないためについ食べさせようとして色々あやしたりすかししたりし、其爲に一層時間をこる事になる。又子供の想像性から來たり、親の注意を惹かうとしてわざと遊び乍ら食べたりする事もある。又食べ乍ら話をするのも食事時間を長引かす事になる。其他行儀の悪い食べ方、食べ散したり、こぼしたり、よく噛まずに食べたり、頬張つたりするのも問題にされる悪習慣である。

嘔吐 之は疾病の徴候を考へられるので、健康診断が必要であるが、習慣になつた嘔吐や、感情が興奮した時に現れるものがある。親が無理に食べさせようとする食事の中に嘔吐がある。斯かる經驗を數回繰返してをるが、食事中に何時でも反抗の現れとして嘔吐をする様になる事があ

る。故に身體的原因なしに嘔吐な場合は其心理的原因を追究する要がある。

取扱法 問題が起つてから矯正するよりも起らない様に豫防する方が賢明である。一般に離乳期からそろ／＼問題が起り初めるから食事の訓練は出来るだけ早くからする必要がある。

乳兒は吸ふ事のみを知つて嘔む事は知らない爲に、固形物を食べる様になつても、それを吸はうとする。其爲に口からこぼしたりする。之を見て母達は子供は食べるのを厭がるのでないか、榮養が足りなくなつては大變だ等と心配して、色々食べさせようしたり、騒いだりする。斯くの如くして食事の時間が感情的に緊張した時間になつて來る。

又子供が大きくなり、新しい食物が追加される様になるが、新しい味や口あたりを嫌つて食べようしない事がある。斯かる場合はお腹が空いてゐる時か、食事の前に少量與へる様にするよ。又子供が何時も一定量だけ食事をこるを期待するのは誤つてゐる。大人だつて食慾のある時と無い時がある、同様に子供だつて餘り食べたく無い時がある譯である。斯かる場合にや／＼言つて食べさせようとするのはよくない。食事時間が感情的緊張の場面になる事が一番禁物である。

よく整つたおいしい食物、靜かな楽しい食事時間、餘り形式的行儀をやかましく言はない事、充分にして長過ぎない時間がよい食事の習慣を作るに最も必要な要件である。

次に悪い習慣を矯正するには、先づ身體的原因の有無を調べ、これと言ふ原因が無い場合なら、其矯正法はさきの場合でも殆んど同様である。

矯正は先づ親の態度に向けられねばならない。親が餘り心配したり、世話をやき過ぎるのがいけない。之を直すのが第一歩である。

宥めたり賺したり、怒つたり、親が食べさせてやつたり、興奮したり、心配したりする親の態度から先づ矯正しなければいけない。一度や二度食事をこらなくても子供の體にさはりはしない事を先づ承知してをく必要があるし、又子供が食べてをる時に言葉や動作で妨げてはならない。斯かる豫備的心構へや決心が出来たら、次に積極的な矯正法を講じて行く。

1、規則正しい食事時間を定め、續けて行くこと。

2、食事の間には食べさせない事。併し一日に五回食べさせるのが必要であり又好ましい。即ち十時三三時に間食を與へる。パン、ビスケット、牛乳等の榮養物を與へるのがよい。少し大きくなれば三時だけでよい。斯る中間食は正規の食事として、其時間は一定にしておく必要がある。

3、小さな子供は一人で或は子供たちだけで食べさせるのがよい。大人と一緒にでない方がよい。尤も之は悪習慣を矯正してゐる時の話であつて、後になれば一緒に食事をさせる。

4、よく調理された食物を少量子供の皿に盛つてやる。初めから澤山盛つてをくよりも、食べてしまつたら餘分に追加して食べさせる遣方の方がよい。

5、食事時間は二十分乃至三十分とする。時間が来れば食物は下げてしまふ。尤も一々時計を眺めてやるのはよくない。

6、子供が何かを食べなくても一々聞いたり強ひたりしてはいけない。大人だつて何時も出されたものを全部食べる譯ではない。子供が嫌ひな食物を食べさせる必要がある時には食事の前に極く少量與へるこよい。この場合、次にみんな御馳走が出るか等は言はない方がよい、後からお菓子がもらへる事が判つてゐるこ大根やじゃが芋等には興味を持たないのは當然であらう。

7、以上の遣り方は出来るだけ言葉によらず實物的によつて行くがよい。實物的と言ふのは、子供の食べる食物について説明したり、お説教をしてはいけない。

以上の遣り方を實行すれば子供の食慾不足や悪習慣等は大概治る筈である。或る極端に食事で手古づつてゐる三歳の子供も以上のやり方で三週間て完全に治つた例もある。

# 大東亞戰爭必勝完遂

## 幼児の母



昭和十八年  
一月

### 我が子、國の子 國の子、我が子

我が子は國の子だと氣のつく時、親の責任は強くなります。可愛いはばかりでなく、我が家にとつて大切なばかりでなく、國の子として誤りなく育てなければならぬといふ、おごそかな感じですが、我が子を弱くしたり、悪くしたりしたら、我が子であるだけなら親の勝手といふものの、國の子を粗末にしたといふ不所存になるのです。申し譯ないことになるのです。國に捧げて初めて國の子になるのではありません。生れた時から國の子なのです。

國の子が我が子であると思ふ時、親の喜びは大きくなります。親とは、國の子を、我が子として生み、抱き、育て、ゆく榮譽をもつばかりでなく、國の子に、親として親まれ、たよられ、貴はれもしてゐるのです。我が子を我が子としてゐるだけのことでなく、國の子を、それも、頼まれたり、預けられたりしてゐるのではなく、はじめつから、我が子にしてゐるのです。親といふものは何んといふえらいものでせう。

我が子國の子、國の子我が子。ごつちを先きにいふことも出来ません。一つです。

### 幼稚園から

○オメデタウゴザイマス。なぜ目出度いのでせう。お子さんが、たのもししい皇國民となつて、御國のために盡すことの出来る年へ、一年進まれたからです。子ども成長は、御國のため故に目出度いことなのです。國民幼稚園のわたくし達は、こうした心持ちで、お子さん方のお正月を迎へました。

○ヘイタイサン アリガタウゴザイマス。わたくし達は毎日この心持ちで暮してゐますが、健康に、快活に、にこ／＼としてお正月を迎へてゐるお子さん達の顔を見て、今更にこの心持ちが込みあげて來ます。

○御國のための一心と、戦下將兵への感謝とで、わたくし達の保育ごころも盛り上げられて、今年もお子さん方ひとり／＼を、大切に保育します。御家庭のお母さん方、御熱心に力をあはせて。

教 育  
問 答

## 時局を幼児にどう教へませう

倉 橋 惣 三

「今日の時局は、どういふ風に子どもに教へたらよろしいでせうか」

「教へるといふことにも、いろ／＼の段とひまですが、層といひますか、意味を理解させるのと、事實を知らせるのとありましてね。時局を教へるといつても、

此時局の意義とか性質とかを説明するのと、ありのままの事實を知らせるのとある譯です。幼児の場合、意義の方も多少は教へられませんが、先づ事實をよく知らせることが主でせうね」

「と、ちつしやいますか」

「たゞへはです、ニュースに傳へられるその時々、戦闘とその戦果、分つてゐるならその戦闘の有様、といつた事を、いはゞ物語り風に聞かせるのですね」

「物語り風と申されますのは」

「こうしてこうした。ちつて、いつ、日本軍艦が、飛行機が、潜水艇が、アメリカの艦隊をやつゝけた。陸軍の兵隊さ

んが、どこへ敵前上陸をして占領した。といつたことを、その度びに知らせるのですね。出来れば、戦記を讀み聞かせ、戦闘映畫を見せるように」

「それはなが／＼、私どもにはむづかしいことですね」

「なかに、なにもそんなに上手でなくていいのです。たゞね、話し手に氣がはいつてゐなくてはいけません。その戦闘の御苦勞の察し、戦死眞傷せられた方もあらうといふ心の痛み、殊に、勝つて嬉しい、有り難いといふ感激。それが話し手の心の中に溢れてゐて、話す時の調子に出て來るのでなければなりませんね」

「大東亞戦争の意義といふことは」

「教へたいことではあります、幼児には充分分りますまい。」

「二年目だ、一層しつかりしなくてはならぬといふことは」

〔文部省推薦児童圖書〕

童話集 朝の幼稚園 北原白秋著

昭和十七年七月十日

帝國教育會出版部發行（神田一ツ橋二

ノ九）B五判 六四頁 定價一圓八十錢

本書は著者の作になる「グラウタイシサマオウマレナツタ」以下三十篇の童話に、小池巖、高橋庸外七氏の畫を添つた童話畫集である。本書の特色とも言ふべきものは、材料の選擇が一貫して居り、何の作品にも氣品と豊かさがあり、それが著者独自の韻律によつて非常に美しく明るい感じを與へることである。これに對して畫も亦美しく、文との調子もよく整つてゐる。

稍高價に過ぎる嫌ひがあるが、時局下の少國民に與へて、子供達の知性を磨き、感性を豊かにするに恰好の童話畫集として國民學校入學前後向に推薦する。

山國のこども 酒井朝彦著

昭和十七年八月二十五日



「それも語りたことです。さあ、二年目も勝ちぬくぞ、の標語は至極く結構で、あゝした氣持ちは素より傳へたいのですが、それ以上は幼児には、意味が分りませんまい。」

「ではたゞ事實のまゝだけで」

「だけ、は心細いですね。事實には時局の魂が籠り、事實を語る時には心が傳はらずにゐないでせう」

「それはそうですが」

「つまり、何んのために食ふとは教へずとも、一つ／＼の食物そのものをよく攝取させれば、血となり肉となるやうに。何しろ奥さん、戦争は現に行はれてゐるのです。その生々しい事實が、子どもに傳へられるのです。大きな時局教育ではありませぬか。その上に、この一年、戦闘は大々的勝利の連続で、その話には、皆喜びと感激を伴はぬものはないのです。そこを幼児に傳へたいですね。——わたしは子どもの時、戦闘の話をおつかさんがよくして下さつた。話さずにはなれなかつたのだね、あの時の話はこの

頃本で読んで詳しく分るが、あのお母さんの感激は、心にしみ通つて忘れられないね——と、お子さんが、後になつて言はれるでせう。」

「なる程。ところが、戦争のことなど幼いものには教へず、たゞ遊ばせて置けばいゝといふ風にいふ方もありますが」

「そんなでもない。忠勇な日本の兵隊さんの勇ましい戦闘ぶりを聞いて神経衰弱になるような子どもは駄目ですね。又、そんなことありませんよ。但し、話し手が戦争を恐れたり、米英を恐れたりしてゐるのだつたら、子どもをもそうさせて、神経を害しませうが」

「分りました。私も、戦争を恐れてはるません。戦闘といへば、國の爲といふ感激と、その喜びと、感謝と、緊張が湧くだけでございます。」

「あなたのその逞ましい、どこまでも國中心の戦争感を、お子さんに傳へておあげなさい。それが、時局教育ですよ。」

小學館 發行 (神田區一ツ橋二ノ五)  
A五判 一六四頁 定價一圓五十錢

本書は山國の素朴で美しい風土や行事等を背景として十吉といふ少年を中心、正月から十二月までの季節の特色と、お祭の有様を描きながら、清らかな山村の生活を映した長篇童話である。

淡々とした表現の中に、自然の美しさ、そして又その自然に對する人々の憧憬の念がよく表はされてゐる。川島四郎氏の挿畫もよい。國民學校二・三年向に推薦する。

飛田しげる 文  
吉田廉三郎 畫

オテツダヒ

(四一六歳) 泰光堂  
昭和十七、十月發行

0.25

矢野海彦 文  
小川眞吉 畫

ヘイタイサン

(五一七歳)

泰光堂  
昭和十七十月發行

0.25

範 例

オ 天 氣	ハレ		
	1日	日	日
	金曜	曜	曜
ゴキゲンヨクオキマシタカ	○		
オヨウブクハヒトリデキマシタカ	○		
オカホハヒトリデアラヒマシタカ	○		
カミサマ、ホトケサマヲオガミマシタカ	○		
イタマキマス、ゴチサウサマノゴアイサツ	○		
オチャワンハサゲマシタカ	×		
エウチエンヘデカケルオシタクラサツサトシマシタカ	×		
エウチエンヘデカケルゴアイサツ	○		
カハツタゴアイサツ	○		
オデアラヒ、オウガヒ	○		
オヤツノオサラハサゲマシタカ	○		
オユフシヨクノオデアラヒオウガヒ	○		
オチャワンハサゲマシタカ	○		
エホン、ツミキ、オドウグノオカタヅケ	○		
ネルマヘノオウガヒ	×		
オネマキノキカヘ	×		
オグツミガキ	×		
シンブン、オテガミカタヅケ	○		

躰方の試み

附屬幼稚園 菊池ふじの

もういくつ寝たらお正月と、毎日指折り數へて待つてゐた幼  
い人達には、お正月といふものがどんなに新しい改まつたもの  
であるかは申し様のない程です。で折角改まつてゐるこの新年  
を機會に、しつかりと躰けてゆくことに致し度いと思ひます。  
お子さんに躰けてゆき度い躰は考へて見ますとあれもこれも  
と數限りもなく浮かんでまゐりますが、口やかましく  
言ふとか、掛聲だけではなかく實行出來ず、うやむ  
やに終つてしまふことが多くはないでせうか。

これの實行の方法としてこんなことをして見ては如  
何でせう。お母様が御自分の御子様について、一番缺  
けてゐると思はれる點とか或は一番躰けて置き度いと  
思はれる躰を然るべく選ばれ、夏休みなどに實行され  
たやうな表を作り、それに毎日、お子さんお母さん共  
同で記入されること。これがやはり一番徹底するやり  
方ではないかと思ひます。更にこれを幼稚園の受持の  
先生と聯絡を取られ、一週間毎にとか三日目にかい  
ふ風に見て貰つて、奨励の言葉をかけて頂くとか、又  
は未で何かしるしをつけていたゞくとかの方法を探れ  
ば相當効果が擧げられると思ひます。  
假に上の様な表を作つてみました。此表をお子さん  
の手の届く所に貼つておいて、お夕食後、まづおねむに  
ならない頃に記入させてしまふ事。項目が多過ぎる様  
でしたら削る事、加へ度い事があつたら附加へる事。